

正直古墳群調査保存事業

正直古墳群

— 総括報告書 —

第1編 遺構と遺物・写真図版編

2025.3

福島県郡山市教育委員会



正直27号墳出土石製模造品

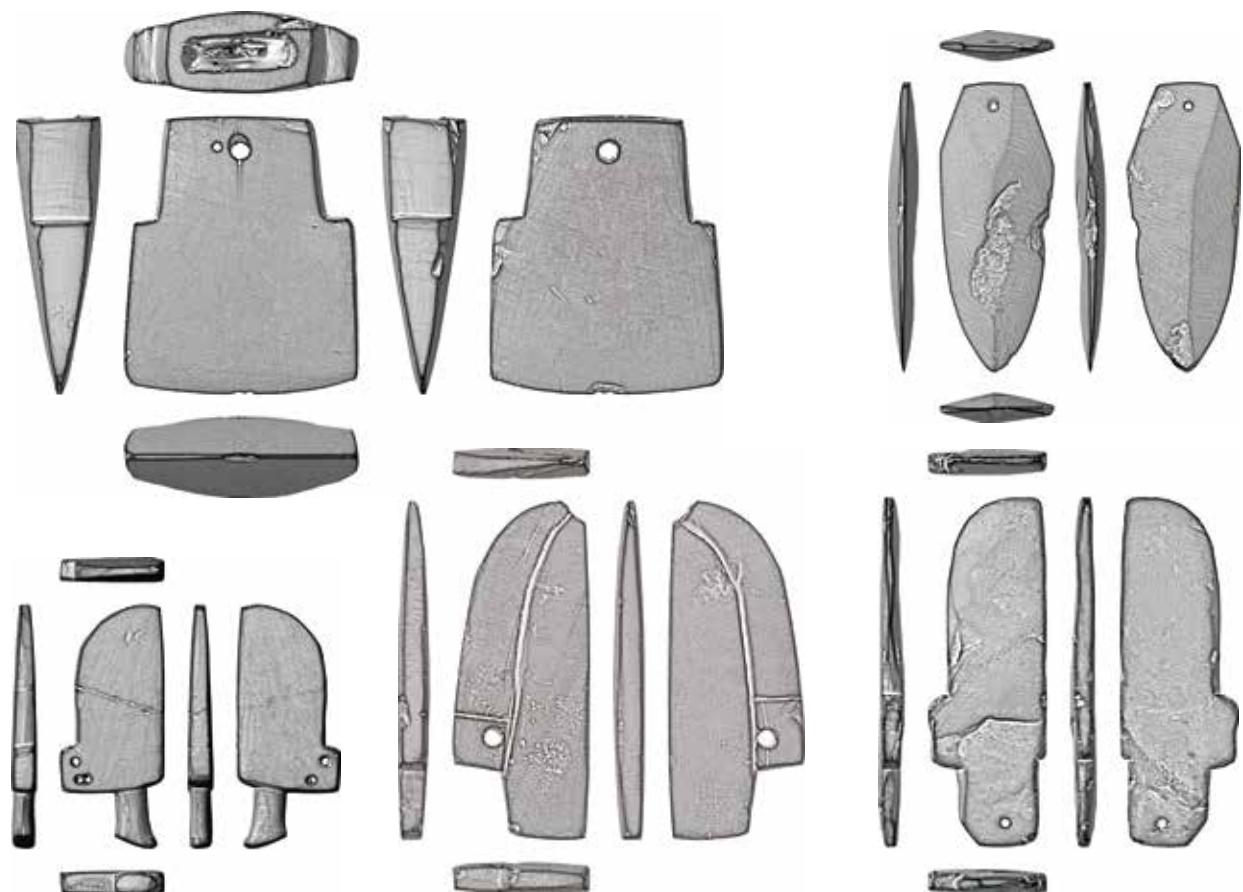


正直27号墳出土鐵製品

巻頭図版 2



正直27・23・30号墳出土石製模造品



正直27・23・30号墳出土石製模造品 3Dデータ画像展開図

序 文

正直古墳群は、市内でも重要な遺跡の一つで、現在は40余基の古墳が確認されていますが、往時は50基以上の古墳が群をなしていたと考えられております。昭和24年から福島県による分布調査や開発に伴う緊急発掘調査、学生考古学会等民間の団体による調査により、人骨や石製模造品をはじめとした様々な副葬品が発見され、それらの調査成果から、古墳時代中期の概ね5世紀代を中心とする古墳群として評価を受けてきました。しかし、近年の開発により未調査のまま消失したものや一部欠損してしまった古墳もあり、古墳の保護・保存が喫緊の課題となっているところです。

こうした状況の下、古墳群の保護・保存を図るため、平成29年度から国庫補助事業として、正直古墳群の内容把握や実態解明のために、古墳群の中核とされる古墳の調査を進めてまいりました。その中で、調査した古墳の築造時期が明らかになるとともに、新たな古墳が発見されるなど、正直古墳群が古墳時代前期から中期に至るまで継続して築造されてきたことが判明し、現存する古墳群では全国的にも貴重な遺跡であることが明らかになってきました。加えて、正直古墳群では現状で唯一の前方後方墳である35号墳について、国指定史跡にもなっている大安場古墳1号墳とほぼ同時期に築造されたことが判明するなど、近隣遺跡との関係性がより重要視されることとなりました。

本書は、郡山市が実施した調査だけでなく、報告書が発表されていない調査も含め、今までの調査内容を総括して整理し、新たな事実の考察をとりまとめたものです。この報告書が、今後も継続する発掘調査や研究者の方の研究の一助となることを期待しております。

結びに、これまでの調査にあたり多大なる御協力を賜りました地権者の皆様、田村町正直行政区長様、地元の皆様、発掘調査に従事されました皆様方、発掘調査に御指導をいただきました正直古墳群の調査保存に係る懇談会の委員の皆様に厚く御礼を申し上げ、序文といたします。

令和7年3月

郡山市教育委員会

教育長 小野 義明

例　　言

1. 本書は、福島県郡山市田村町正直に所在する正直古墳群のこれまでの成果をまとめた総括報告書である。
2. 本書は、「第1編 遺構と遺物・写真図版編」と「第2編 自然科学分析・考察編」からなる。
3. 本書は、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社が編集し、郡山市教育委員会が発行した。
4. 報告書作成に関わる費用は国庫補助金と市費による。
5. 本書の執筆は、第1章～第4章第1節、第4章第3節～第6章第4節を郡山市文化・学び振興公社の佐久間正明が、第4章第2節を茂原信生・荒井淑子・芹澤雅夫・江藤盛治氏が、第6章第5節を郡山市文化スポーツ部文化振興課文化財保護係の濱田暁子・荒木麻衣が行った。
6. 正直古墳群の調査成果は、これまでにも概要報告などで報告している。それらの記述と本書の記述に相違がある場合には、本書の記述を優先し、現時点での認識とする。
7. 人物の肩書は当時のものである。記載にあたっては順不同で敬称を略す。
8. 本書に掲載した遺構図・遺物図のトレースは、佐久間と郡山市文化・学び振興公社職員の渡邊咲良、臨時職員の秋元菜々・本田絢子が作成した。遺物は、可能な限り佐久間が再実測を行い、写真撮影を行った。
9. 本書における標高は全て海拔（T P）で表す。測量基準点の座標値は、世界測地系平面直角座標第IX系による。遺構図の方位は、座標北を示す。
10. 古墳は1号墳から番号を付し、新たな古墳を発見するたびに新たな番号を付し、連番としている。当初古墳の埋葬施設と記載された36号墳は、30号墳の墳丘外埋葬施設であるため欠番となっている。土坑や溝はそれぞれの調査の際に1号から番号を付している。
11. 遺構・遺物の用語について。これまでの概要報告では様々な名称が用いられてきた。総括報告では「埋葬施設」・「箱式石棺」・「箱式石棺〇〇区画」・「石製模造品」・「溝」・「竪穴建物」に統一するとともに、本書の用語を優先する。特定の遺構を引用する場合は、報告書で使用された名前を用いる。
12. 遺物の用語について。「壺形土器」は「壺」、「高环形土器」は「高环」等と略述する。また、「土器」という名称を使用するが、弥生土器と区別する場合は「土師器」の名称を用いる。
13. 過去の調査で得られた資料及び記録類について。正直9号墳の石製模造品は福島県立博物館が所蔵し、母畑地区遺跡分布調査報告に伴う資料・記録類は福島県文化財センター白河館が所蔵する。これらの遺物については、本報告にあたり、両施設において佐久間が写真撮影を行った。なおそれ以外の資料及び記録類は、郡山市教育委員会が所蔵している。
14. 遺物番号に※印を付したものは、概要報告などで公表されながら、現在、所在が不明な遺物である。
15. 本書に掲載した地図は、記載のない地形図については、株式会社ふたばが「正直古墳群全体地形測量図作成業務」で作成した測量図を基図として使用した。また、三角網画像（第12・13図）及びオルソ画像（第15図）も、同業務で作成した画像を一部改変して使用した。
16. 本書に掲載した地形図のうち、第7・9図は、国営総合農地開発事業母畑地区の計画平面図（1/1,000）を基図として使用した。
17. 遺物3D画像は、株式会社一測設計が「正直古墳群3Dデータ作成業務」で作成したものを利用した。

第1編 目 次

卷頭図版

序 文

例 言

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境	1
第2節 古墳時代の遺跡	3
(1) 阿武隈川西岸	3
(2) 阿武隈川東岸	8

第2章 既往の調査概要

第1節 既往の調査	17
(1) 正直古墳群調査の概要	17
(2) 「正直古墳群調査保存事業」の経緯	20
第2節 墳形の認識と群の構成	23
(1) 古墳群の構成	23
(2) 墳形の認識	25
(3) 古墳ごとの概要	25
(4) 古墳群の現在の状況	33

第3章 遺構と遺物

第1節 支群A	37
(1) 支群Aの概要	37
(2) 正直35号墳	37
(3) 正直39号墳	53
第2節 支群B	56
(1) 支群Bの概要	56
(2) 正直27号墳の概要	56
(3) 南箱式石棺と出土遺物	59
(4) 北箱式石棺	69
(5) 北箱式石棺東側区画出土遺物	72
(6) 北箱式石棺西側区画出土遺物	81
(7) 周溝と墳丘外埋葬施設	93
(8) 正直26号墳	98
(9) 正直44号墳	98
(10) 正直45号墳	98
(11) 1号土坑	101
第3節 支群C	102
(1) 支群Cの概要	102
(2) 正直23号墳	104
第4節 支群D	110
(1) 支群Dの概要	110
(2) 正直30号墳	110
第5節 支群E	124
(1) 支群Eの概要	124
第6節 支群F	126

(1) 支群Fの概要	126	(3) 周溝・墳丘下部	133
(2) 正直21号墳の調査	126	(4) 埋葬施設	143
第7節 支群G			145
(1) 支群Gの概要	145	(2) 正直10号墳	145
第8節 支群H			148
(1) 支群Hの概要	148	(5) 正直15号墳	164
(2) 正直11号墳	152	(6) 土坑墓	171
(3) 正直12号墳	152	(7) 正直9号墳	176
(4) 正直13号墳	157		
第9節 分布調査			178

挿 図 目 次

第1図 正直古墳群の位置	2	第21図 35号墳第4・5トレンチ平面図・断面図	
第2図 郡山盆地と古墳時代の主要遺跡分布図	2	···	46
第3図 郡山西部の古墳時代主要遺跡分布図	4	第22図 35号墳第6トレンチ平面図・断面図	48
第4図 清水内遺跡の概要	5	第23図 35号墳第7トレンチ平面図・断面図	49
第5図 郡山東部の古墳時代主要遺跡分布図	9	第24図 35号墳第7トレンチ出土土器	50
第6図 郡山南東部遺跡群の渡来系遺物	12	第25図 35号墳第7トレンチ土層分布図・断面図	
第7図 正直古墳群・正直B遺跡の範囲 (折込)	15	···	50
第8図 調査保存懇談会現地指導		第26図 35号墳第8トレンチ平面図・断面図	52
・文化庁調査官視察風景	21	第27図 35号墳第9トレンチ平面図・断面図	54
第9図 支群構成図	24	第28図 35号墳墳丘復元図	55
第10図 古墳の認識とその変遷(1)	26	第29図 支群B測量図	57
第11図 古墳の認識とその変遷(2)	27	第30図 支群Bトレンチ配置図	58
第12図 正直古墳群三角網画像(1)	34	第31図 27号墳平面図	60
第13図 正直古墳群三角網画像(2)	35	第32図 27号墳第1トレンチ	61
第14図 1948年撮影写真	36	第33図 27号墳南箱式石棺蓋石平面図・側面図	62
第15図 オルソ画像	36	第34図 27号墳南箱式石棺側石・底石平面図	63
第16図 支群A測量図	38	第35図 27号墳南箱式石棺遺物出土位置図	63
第17図 35号墳測量図・トレンチ配置図	39	第36図 27号墳南箱式石棺出土鉄製品	65
第18図 35号墳第1トレンチ平面図・断面図	40	第37図 27号墳南箱式石棺出土石製模造品(1)	
第19図 35号墳第2トレンチ平面図・断面図	42	···	66
第20図 35号墳第3トレンチ平面図・断面図	44	第38図 27号墳南箱式石棺出土石製模造品(2)	
		···	67

第39図 27号墳南箱式石棺出土石製模造品（3）	68
第40図 27号墳北箱式石棺蓋石平面図・側面図	70
第41図 27号墳北箱式石棺側石・底石平面図	71
第42図 27号墳北箱式石棺東側区画遺物出土位置図	73
第43図 北箱式石棺東側区画出土鉄製品・堅櫛	74
第44図 27号墳北箱式石棺東側区画出土石製模造品（1）	76
第45図 27号墳北箱式石棺東側区画出土石製模造品（2）	77
第46図 27号墳北箱式石棺東側区画出土臼玉A1類（1）	78
第47図 27号墳北箱式石棺東側区画出土臼玉A1類（2）	79
第48図 27号墳北箱式石棺東側区画出土臼玉A2類	79
第49図 27号墳北箱式石棺東側区画出土臼玉B類	80
第50図 27号墳北箱式石棺東側区画出土ガラス小玉	80
第51図 27号墳北箱式石棺西側区画遺物出土位置図	82
第52図 27号墳北箱式石棺西側区画出土鉄剣	84
第53図 27号墳北箱式石棺西側区画出土鹿角装具（1）	85
第54図 27号墳北箱式石棺西側区画出土鹿角装具（2）	86
第55図 27号墳北箱式石棺西側区画出土石製模造品（1）	88
第56図 27号墳北箱式石棺西側区画出土石製模造品（2）	89
第57図 27号墳北箱式石棺西側区画出土臼玉A1類（1）	90
第58図 27号墳北箱式石棺西側区画出土臼玉A1類（2）	91
第59図 27号墳北箱式石棺西側区画出土臼玉A1類（3）	92
第60図 27号墳北箱式石棺西側区画出土臼玉A2類	92
第61図 27号墳北箱式石棺西側区画出土臼玉B類	92
第62図 27号墳北箱式石棺西側区画出土ガラス小玉	92
第63図 27号墳周溝第8・10トレンチ平面図・断面図	94
第64図 27号墳周溝第11・12トレンチ平面図・断面図	95
第65図 6号土坑平面図・断面図	96
第66図 6号土坑出土土器	97
第67図 6号土坑出土臼玉B類	97
第68図 6号土坑出土臼玉C類	97
第69図 26・44・45号墳・1号土坑全体図	99
第70図 26・44・45号墳周溝・1号土坑平面図・断面図	100
第71図 支群C測量図	103
第72図 23号墳平面図・断面図	105
第73図 23号墳測量図	106
第74図 23号墳埋葬施設平面図・断面図	106
第75図 23号墳出土石製模造品	108
第76図 23号墳出土臼玉・琥珀玉	108
第77図 支群D測量図	111
第78図 30・31・37号墳測量図	112
第79図 30号墳平面図	114
第80図 30号墳断面図	115
第81図 30号墳出土石製模造品	116
第82図 30号墳第1埋葬施設平面図・断面図	116
第83図 30号墳第1埋葬施設出土石製模造品	117
第84図 30号墳第1埋葬施設出土臼玉	117
第85図 30号墳第1埋葬施設出土土器	117
第86図 30号墳第2埋葬施設平面図・断面図	119
第87図 30号墳第2埋葬施設出土玉類	119

第 88 図 30 号墳第 2 埋葬施設出土ガラス小玉	119
第 89 図 30 号墳墳丘外埋葬施設平面図・断面図	120
第 90 図 30 号墳墳丘外埋葬施設排水溝平面図・断面図	122
第 91 図 30 号墳墳丘外埋葬施設出土石製模造品	123
第 92 図 30 号墳墳丘外埋葬施設出土土器	123
第 93 図 支群 E 測量図	125
第 94 図 支群 F 測量図	127
第 95 図 20・21・43 号墳測量図	128
第 96 図 21 号墳測量図	129
第 97 図 21 号トレンチ配置図	130
第 98 図 21 号墳墳丘南側削平部第 1 トレンチ	132
第 99 図 21 号墳墳丘南側削平部 1 号溝および出土土器	132
第 100 図 21 号墳墳丘東側削平部墳丘断面見通し図	132
第 101 図 21 号墳遺構外出出土土器	134
第 102 図 第 2 トレンチ平面図・断面図・出土土器	135
第 103 図 第 3 トレンチ平面図・断面図・出土土器	137
第 104 図 第 4 トレンチ平面図・断面図・出土土器	139
第 105 図 第 5 トレンチ平面図・断面図・遺物出土状況図	140
第 106 図 第 6 トレンチ平面図・断面図・出土土器	142
第 107 図 21 号墳埋葬施設平面図・断面図	144
第 108 図 支群 G 地形図・トレンチ配置図	146
第 109 図 10 号墳周溝第 62 トレンチ平面図・断面図	147
第 110 図 支群 H 測量図	149
第 111 図 支群 H トレンチ配置図	150
第 112 図 11~13 号墳測量図	151
第 113 図 11 号墳平面図	153
第 114 図 11 号墳墳丘下旧表土出土遺物分布図	153
第 115 図 11 号墳断面図	154
第 116 図 11 号墳埋葬施設平面図・断面図	155
第 117 図 11 号墳出土土器	156
第 118 図 12 号墳平面図・出土遺物分布図	158
第 119 図 12 号墳断面図	159
第 120 図 12 号墳出土土器	160
第 121 図 13 号墳平面図	161
第 122 図 13 号墳墳丘下ピット	161
第 123 図 13 号墳断面図	162
第 124 図 13 号墳埋葬施設平面図・断面図	163
第 125 図 13 号墳埋葬施設出土鉄鏃	165
第 126 図 13 号墳出土土器	166
第 127 図 13 号墳出土土器・砥石	167
第 128 図 13 号墳出土石製模造品	168
第 129 図 14~16 号墳測量図	169
第 130 図 15 号墳平面図・断面図	170
第 131 図 15 号墳周溝出土石製模造品	172
第 132 図 15 号墳周溝出土土器	172
第 133 図 15 号墳旧表土直上面出土石製模造品	173
第 134 図 15 号墳旧表土直上面出土土器	173
第 135 図 15 号墳墳丘内出土土器	174
第 136 図 1 号溝出土石製模造品	174
第 137 図 15 号墳および周辺遺構全体図	174
第 138 図 15 号墳土坑墓平面図・断面図・出土鉄製品	175
第 139 図 9 号墳出土石製模造品	177
第 140 図 正直 B 遺跡分布調査北側トレンチ配置図	179
第 141 図 分布調査北側トレンチ出土土器（1）	180
第 142 図 分布調査北側トレンチ出土土器（2）	181
第 143 図 分布調査北側出土石製模造品	181

表 目 次

表1 正直古墳群古墳一覧 ······	18	表4 正直古墳群出土石製模造品一覧 (1) ······	182
表2 正直古墳群出土遺物一覧 ······	19	表5 正直古墳群出土石製模造品一覧 (2) ······	183
表3 正直古墳群における墳形認識の変遷 ······	28		

図 版 目 次

図版1 (1) 正直古墳群遠景 (南より)	図版7 35号墳出土土器
(2) 正直古墳群遠景 (北より)	図版8 (1) 27号墳埋葬施設全景 (東より)
図版2 (1) 支群A全景 (南より・中央に35号墳)	(2) 27号墳埋葬施設全景 (東より)
(2) 35号墳全景 (西より)	(3) 27号墳南箱式石棺 (東より)
(3) 39号墳現況 (南西より)	(4) 27号墳調査風景 (南東より)
(4) 35号墳調査前現況 (南東より)	図版9 (1) 27号墳南箱式石棺全景 (東より)
図版3 (1) 35号墳全景 (上方東)	(2) 27号墳南箱式石棺西隅遺物出土状態
(2) 35号墳全景 (上方東)	(北より)
図版4 (1) 35号墳第1トレンチ斜面部盛土断面 (北より)	図版10 (1) 27号墳南箱式石棺全景 (東より)
(2) 35号墳第2トレンチ全景 (東より)	(2) 27号墳南箱式石棺南西隅遺物出土状態
(3) 35号墳第3トレンチ全景 (西より)	図版11 27号墳南箱式石棺出土鉄製品
(4) 35号墳第3トレンチ墳頂部盛土 (南西より)	図版12 27号墳南箱式石棺出土石製模造品 (1)
(5) 35号墳第3トレンチ北壁断面 (南西より)	図版13 27号墳南箱式石棺出土石製模造品 (2)
(6) 35号墳第4トレンチ全景 (東より)	図版14 27号墳南箱式石棺出土石製模造品 (3)
(7) 35号墳第5トレンチ全景 (西より)	図版15 (1) 27号墳北箱式石棺検出状況 (南東より)
図版5 (1) 35号墳第7トレンチ	(2) 27号墳北箱式石棺検出状況 (西より)
(2) 35号墳くびれ部盛土堆積状況	図版16 (1) 27号墳北箱式石棺蓋石除去後全景 (西より)
(3) 35号墳くびれ部付近の土層堆積状況	(2) 27号墳北箱式石棺蓋石除去後全景 (東より)
(4) 35号墳くびれ部付近の粒状赤色物質	図版17 (1) 27号墳北箱式石棺東側区画全景 (上方東)
図版6 (1) 35号墳第8トレンチ (上方北)	(2) 27号墳北箱式石棺東側区画 (北より)
(2) 35号墳第8トレンチ (北より)	(3) 27号墳北箱式石棺東側区画 (西より)
(3) 35号墳第6トレンチ (南東より)	図版18 (1) 27号墳北箱式石棺西側区画全景 (北西より)
(4) 35号墳第9トレンチ (東より)	(2) 27号墳北箱式石棺西側区画 (上方南)
(5) 35号墳第9トレンチ断面 (北より)	

図版 19	27号墳北箱式石棺東側区画出土遺物	図版 35	(1) 44号墳全景(北東より) (2) 45号墳全景(南より)
図版 20	27号墳北箱式石棺東側区画出土石製模造品(1)	図版 36	(1) 22号墳現況(北より) (2) 23号墳現況(西より)
図版 21	27号墳北箱式石棺東側区画出土石製模造品(2)		(3) 23号墳埋葬施設
図版 22	(1) 27号墳北箱式石棺東側区画出土臼玉 (2) 27号墳北箱式石棺東側区画出土ガラス小玉		(4) 23号墳埋葬施設
図版 23	27号墳北箱式石棺西側区画出土鉄剣		(5) 23号墳出土臼玉・琥珀玉
図版 24	27号墳北箱式石棺西側区画出土鹿角装具(1)	図版 37	23号墳出土石製模造品
図版 25	27号墳北箱式石棺西側区画出土鹿角装具(2)	図版 38	(1) 30号墳全景(西より) (2) 30号墳埋葬施設検出状態(南より)
図版 26	27号墳北箱式石棺西側区画出土石製模造品(1)		(3) 30号墳墳丘断面(南より) (4) 30号墳第1埋葬施設断面
図版 27	(1) 27号墳北箱式石棺西側区画出土 石製模造品(2) (2) 27号墳出土石製模造品の顕微鏡観察		(5) 30号墳周溝出土石製模造品 (6) 30号墳第2埋葬施設出土遺物
図版 28	(1) 27号墳北箱式石棺西側区画出土臼玉 (2) 27号墳北箱式石棺西側区画出土ガラス小玉	図版 39	(1) 30号墳第1埋葬施設出土石製模造品 (2) 30号墳第1埋葬施設出土臼玉
図版 29	(1) 27号墳全景(南より) (2) 27号墳全景(北より)	図版 40	(1) 30号墳墳丘外埋葬施設全景(南より) (2) 30号墳墳丘外埋葬施設全景(北より) (3) 30号墳墳丘外埋葬施設全景(東より)
図版 30	(1) 27号墳第11トレンチ(北東より) (2) 27号墳第11トレンチ遺物出土状態 (東より) (3) 27号墳第11トレンチ(北西より) (4) 27号墳第11トレンチ(西より) (5) 27号墳第10トレンチ遺物出土状態	図版 41	(1) 墳丘外埋葬施設排水溝蓋石検出状態 (東より) (2) 墳丘外埋葬施設排水溝蓋石除去後全景 (東より) (3) 30号墳墳丘外埋葬施設排水溝全景(西より) (4) 30号墳墳丘外埋葬施設排水溝(北より)
図版 31	(1) 27号墳墳丘外土器棺(南より) (2) 27号墳墳丘外土器棺と周溝(南西より) (3) 27号墳墳丘外土器棺閉塞状態 (4) 27号墳墳丘外土器棺閉塞状態 (5) 27号墳墳丘外土器棺掘り方	図版 42	(1) 30号墳墳丘外埋葬施設遺物出土状態 (南より) (2) 30号墳墳丘外埋葬施設遺物出土状態 (東より) (3) 30号墳墳丘外埋葬施設排水溝蓋石
図版 32	(1) 27号墳周溝出土土器 (2) 27号墳墳丘外出土土器(土器棺)	図版 43	(1) 33号墳全景(東より) (2) 34号墳全景(西より)
図版 33	(1) 27号墳墳丘外出土土器(土器棺) (2) 27号墳墳丘外土器棺出土臼玉B類 (3) 27号墳墳丘外土器棺出土臼玉C類	図版 44	(1) 21号墳刈払い・伐採後全景(北東より) (2) 21号墳攪乱土除去後全景(南東より)
図版 34	(1) 26号墳全景(南より) (2) 26号墳全景(北西より) (3) 26号墳トレンチ(南より) (4) 26号墳トレンチ(南より)	図版 45	(1) 21号墳調査区全景(上方西) (2) 21号墳墳丘東側削平部墳丘断面(東より)

図版 46	(1) 21号墳第2トレンチ周溝断面(南東より) (2) 21号墳第3トレンチ周溝断面(北東より) (3) 21号墳第4トレンチ周溝断面(南西より) (4) 21号墳第5トレンチ周溝断面(北西より) (5) 21号墳第6トレンチ全景(北より) (6) 21号墳第6トレンチ周溝断面(北西より) (7) 21号墳第6トレンチ墳丘面旧表土層 (北より)	図版 54 (1) 13号墳埋葬施設(東より) (2) 13号墳埋葬施設鉄鎌出土状態(西より) (3) 13号墳墳丘下ピット1遺物出土状態 (4) 13号墳埋葬施設出土臼玉 (5) 13号墳出土石製模造品
図版 47	(1) 21号墳第1・2埋葬施設確認状況 (上方北) (2) 21号墳墳丘南側削平部周溝断面(北東より) (3) 21号墳墳丘南側削平部1号溝遺物出土状態 (4) 21号墳墳丘南側削平部1号溝遺物出土状態 (5) 21号墳墳丘南側削平部1号溝出土土器	図版 55 13号墳埋葬施設出土鉄鎌
図版 48	21号墳出土土器	図版 56 13号墳出土土器(1)
図版 49	(1) 11号墳周溝土層堆積状態(南より) (2) 11号墳墳丘断面(東より) (3) 11号墳北箱式石棺(南より) (4) 11号墳北箱式石棺(北より)	図版 57 13号墳出土土器(2)
図版 50	11号墳出土土器	図版 58 (1) 15号墳全景(西上空より) (2) 15号墳調査前風景(北より) (3) 14号墳現況(東より) (4) 16号墳現況(西より) (5) 15号墳周溝完掘後全景(北より)
図版 51	(1) 12号墳墳丘断面(南より) (2) 12号墳断面(東より) (3) 12号墳周溝遺物出土状態 (4) 12号墳周溝断面(南より) (5) 12号墳周溝遺物出土状態(西より) (6) 12号墳周溝遺物出土状態(西より)	図版 59 (1) 15号墳周溝完掘後全景(北より) (2) 15号墳墳丘断面(東より) (3) 15号墳周溝遺物出土状態(西より) (4) 15号墳周溝断面(西より) (5) 1号土坑墓全景(東より) (6) 1号土坑墓断面(東より)
図版 52	12号墳出土土器(1)	図版 60 (1) 15号墳周溝出土石製模造品 (2) 15号墳周溝出土土器
図版 53	(1) 12号墳出土土器(2) (2) 13号墳調査後全景(北東より) (3) 13号墳周溝断面(南より) (4) 13号墳墳丘断面(南より)	図版 61 (1) 15号墳旧表土上面出土石製模造品 (2) 15号墳旧表土上面出土土器 (3) 15号墳墳丘内出土土器 (4) 15号墳東1号溝出土石製模造品 (5) 9号墳出土石製模造品
		図版 62 (1) 分布調査出土土器 (2) 分布調査出土石製模造品

第1章 位置と環境

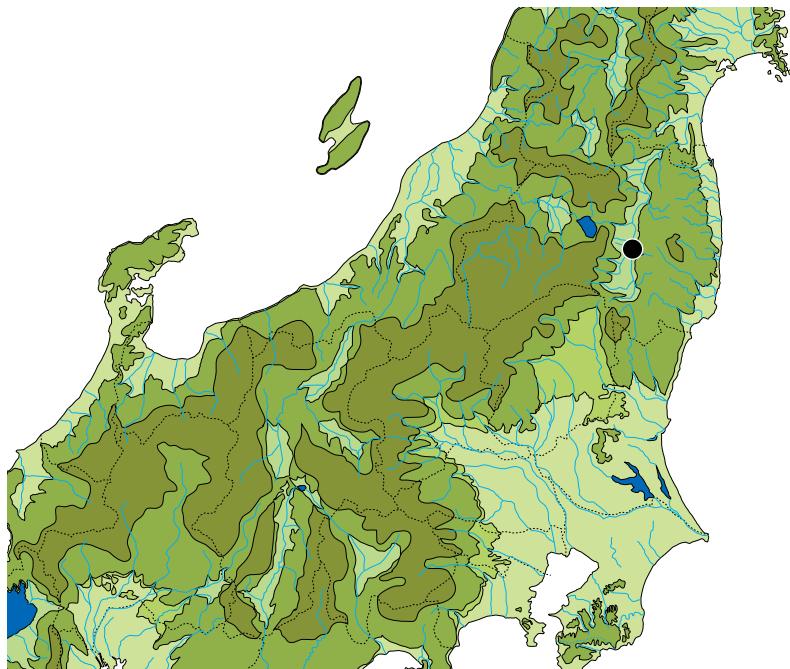
第1節 地理的環境

郡山市は、福島県のほぼ中央部に位置する（第1図）。2025（令和7）年2月現在人口31万8千人を数える商・工業都市で、中心市街地は郡山盆地内にある。1964（昭和39）年の新産業都市、1986（昭和61）年のテクノポリス指定を経て、1997（平成9）年4月1日からは中核市へ移行している。比較的穏やかな内陸性の気候であるが、西の奥羽山脈中に位置する湖南町や熱海町西部は冬季間の積雪量がかなり多い。

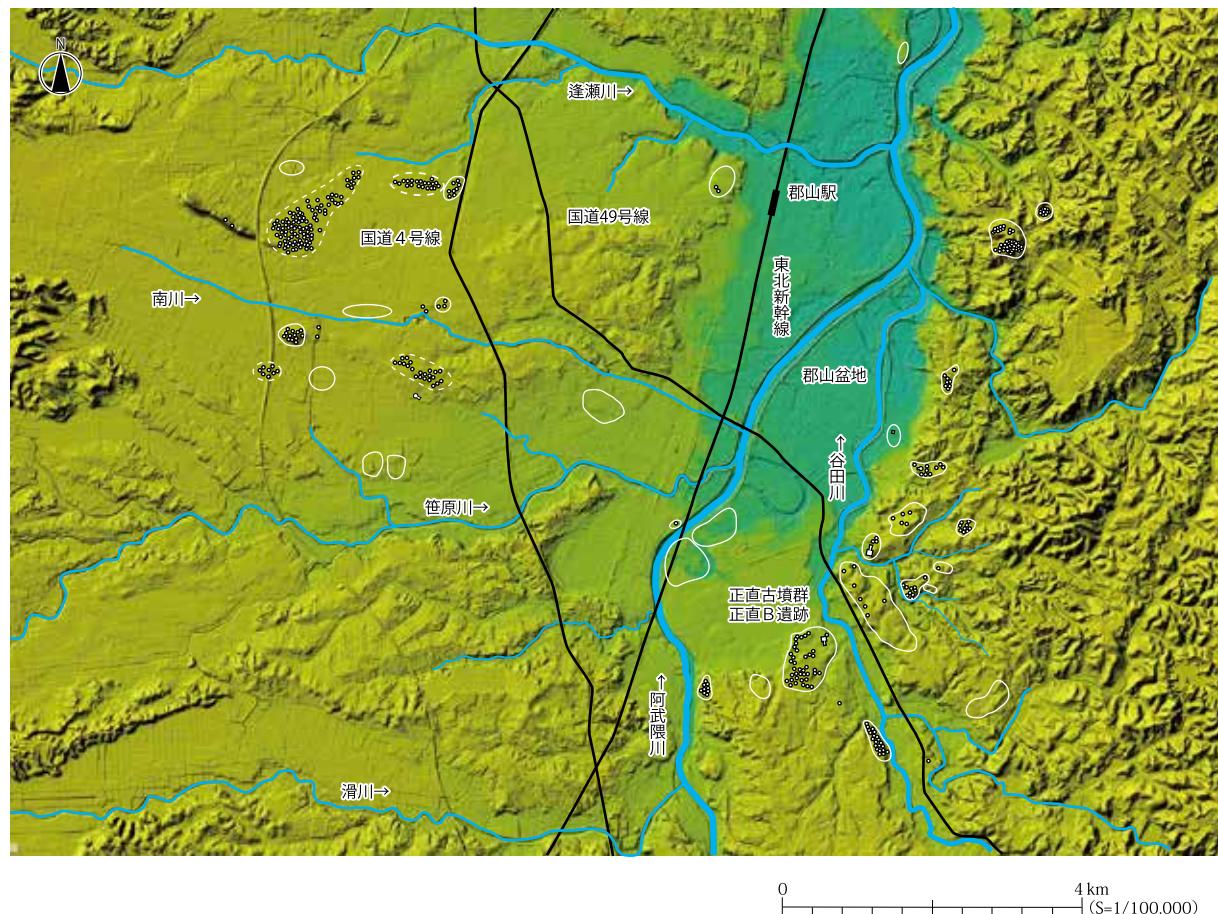
市街地のある郡山盆地は、安達郡大玉村・本宮市付近から須賀川市・白河市付近まで続く山間盆地の一部である。この盆地は、第三紀末のグリーンタフ造山期に阿武隈山地と奥羽山脈との間に起こった相対的沈降作用によって形成されたもので、縁辺に断層も認められることから断層盆地の特性も併せ持つ。盆地の基盤は、花崗岩類とそれを覆う第三紀層並びに白河石英安山岩質溶結凝灰岩からなり、盆地床の一部でこの基盤は300～400mの丘陵地を形成している。

盆地内を南北に貫流する阿武隈川は、西の奥羽山脈から笛原川・逢瀬川・藤田川・五百川、東の阿武隈山地から谷田川・大滝根川・桜川などの支流を集めて盆地東縁部を北流している（第2図）。これらの大小河川の浸食により、盆地の大半を占める西岸の地域では東西方向に伸びる複数列のなだらかな台地や扇状地地形が観察され、東岸では南東部の阿武隈川と谷田川に挟まれた地域に段丘地形や沖積低地を見ることができる。また、谷田川東岸の郡山市田村町大善寺以北では、阿武隈山地に続く丘陵が樹枝状に開析され、複雑な地形を形成している。

今回総括報告を行う正直古墳群は、郡山市田村町正直に所在し、JR郡山駅の南約6kmに位置している。付近は郡山盆地の南東部に当たり、西側を阿武隈川、東側を谷田川が流れ、北側には両河川によって形成された沖積低地が広がっている。古墳群は、両河川に挟まれた通称守山台地と呼ばれる砂礫台地の北端を占める正直B遺跡内に点在し、標高約240～250mの上～中位段丘面に築造されている。北側には沖積低地が広がり、東と西は沖積低地から入り込む開析谷に画されている。現地目は、山林と畠地である。



第1図 正直古墳群の位置



第2図 郡山盆地と古墳時代の主要遺跡分布図

第2節 古墳時代の遺跡

1970年代以降、郡山市内においては、郡山東部地区の国営総合農地開発事業や東北自動車道・東北新幹線の建設、大規模な土地区画整理事業や多目的公園の建設等の大型開発が行われた。それに伴い、遺跡の発掘調査が進められ、数多くの貴重な資料が蓄積され、古墳時代の遺跡の広がりや時間的な推移が具体的に解明されている。ここでは、市内で発掘調査された古墳時代の遺跡を中心にその概要を記す。

(1) 阿武隈川西岸 (第3図)

1. 前期

■東丸山遺跡 安積町成田字東丸山・清水台

圃場整備事業に伴い1974（昭和49）年度に発掘調査が行われた。また、1984（昭和59）・1985（昭和60）・1987（昭和62）年度には、多目的公園「郡山カルチャーパーク」建設に伴い、大規模な発掘調査が実施された。両調査では、前期6棟、後期中葉2棟、同後葉20棟の竪穴建物が検出された。また、東西約100m、南北約60mの範囲から、前期の方形周溝墓6基、前・中期の土坑墓4基、中・後期の円形周溝墓6基が確認されている。

【参考文献】郡山市都市計画部・郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1987『東丸山遺跡』郡山カルチャーパーク関連報告第1集

■三ツ坦古墳群 静町

開発工事による削平を受けて、1984（昭和59）年2月に1・2号墳の緊急発掘調査が行われる。トレンチによる墳丘と周溝の部分調査であったため埋葬施設は確認されなかったが、周溝の状況と1号墳出土遺物から、ともに一辺16m前後の前期の方墳と推測される。他に4基の円形周溝も確認している。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1984『三ツ坦古墳群・史跡宇津峯』

■上之内遺跡 富久山町福原字上之内・陣場

民間の宅地造成工事に伴い、1995（平成7）年度に発掘調査が実施された。その際、前期の竪穴建物2棟が検出された。また、2023（令和5）年の調査でも前期の遺物を確認した。

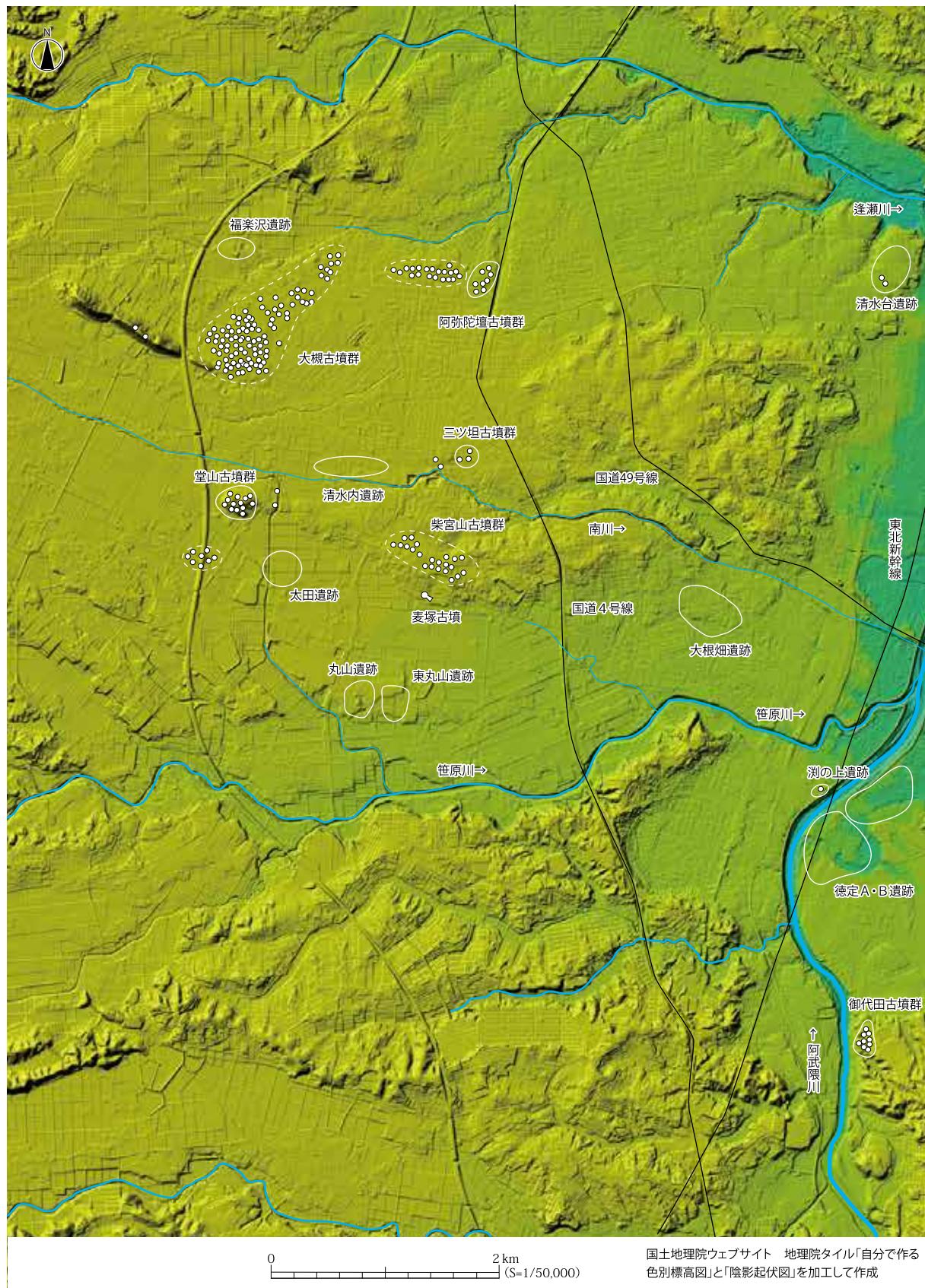
【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1996『上之内遺跡』、郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2023『上之内遺跡－第2次発掘調査報告書－』

2. 中期

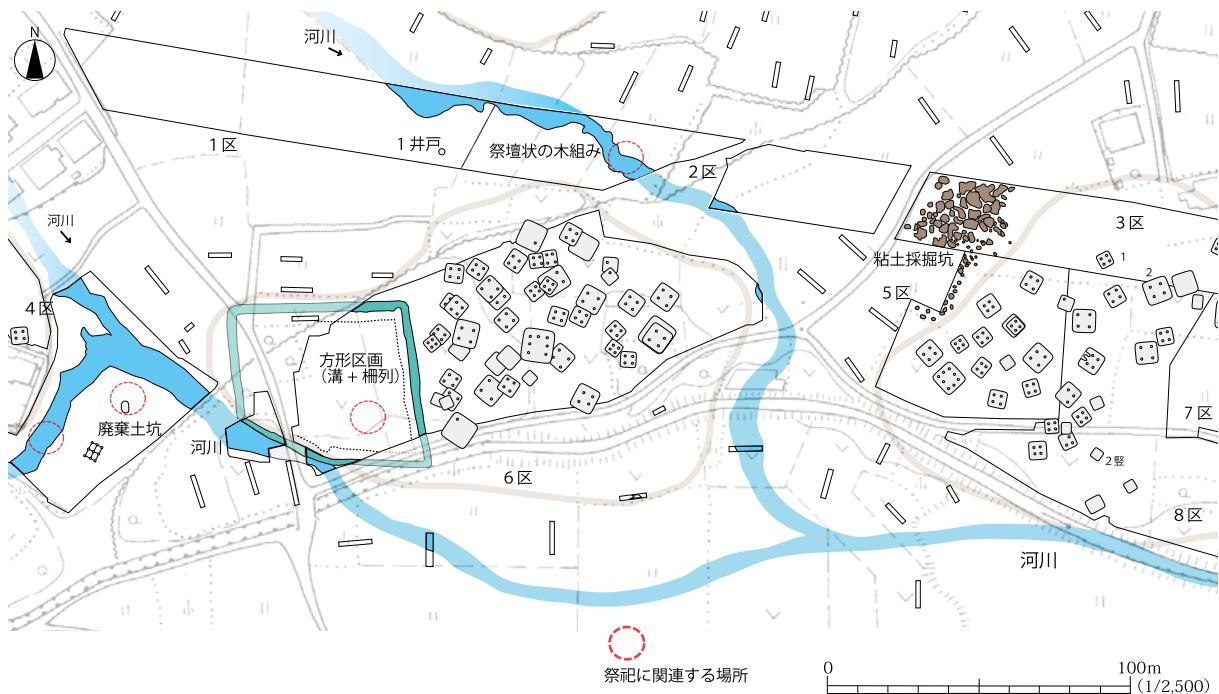
■清水内遺跡 大槻町字人形坦東・上中谷地・中谷地、御前1・5・6丁目

土地区画整備事業に伴い、1995（平成7）年度から1998（平成10）年度にかけて大規模な発掘調査が行われた（第4図）。清水内遺跡は、近畿地方中央部発祥の水に関わる祭祀が東北地方でも行われていたことを明らかにした遺跡である。集落が営まれたのは、古墳時代から奈良・平安時代にかけての時期で、検出された竪穴建物は131棟にのぼる。そのうち最も規模が大きかったのが、古墳時代中期にあたる5世紀第1四半期から第3四半期にかけての集落で、98棟の竪穴建物を発見している。

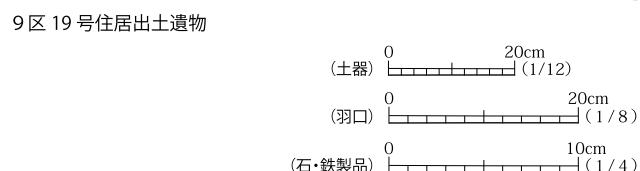
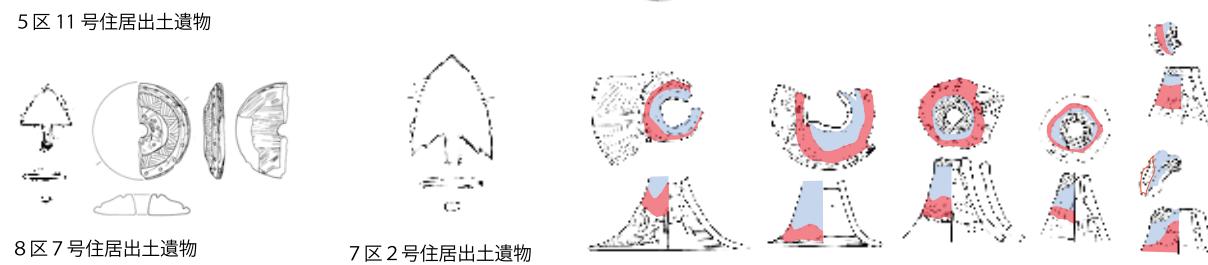
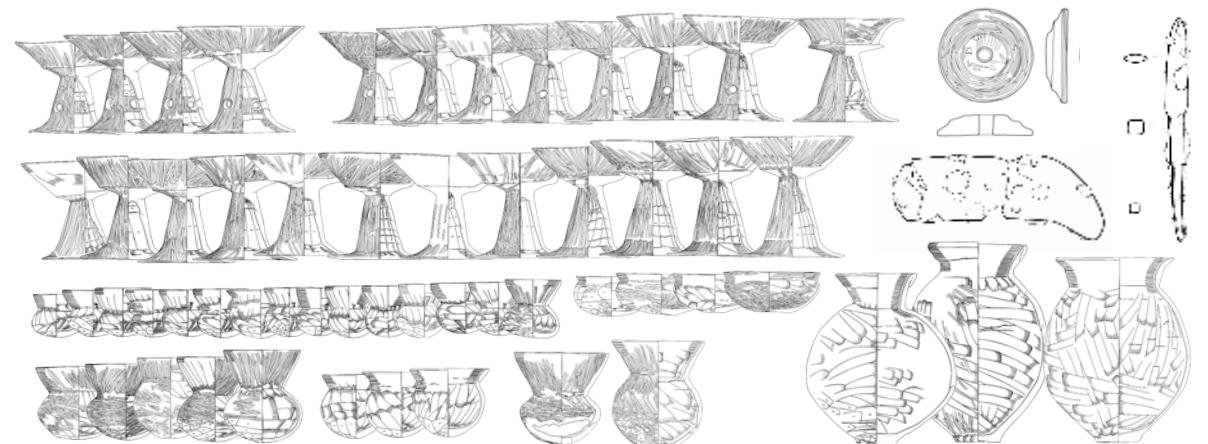
水と関連する祭祀の場所は、2か所確認されている。2区では水辺の祭祀が行われた祭壇状の木組み



第3図 郡山西部の古墳時代主要遺跡分布図



清水内遺跡主要遺構



第4図 清水内遺跡の概要

が見つかり、その周辺から多量の土器が出土したことから、この施設は祭祀遺構と考えられた。調査区の最も西側に位置する4区では、1号河川と1号河川屈曲部南東側にある倒木跡を利用した廃棄土坑があり、石製模造品が見つかった。形態的特徴などから、その製作年代は5世紀第2四半期と考えられる。この河川の合流地点にあたる空間には堅穴建物が見られないことから、居住空間ではなく、祭祀性の高い空間と言える。

遺跡西側では溝と柵列による方形区画遺構が確認された。推定の長さ南北51m、東西55~60mを想定している。南辺においては、溝の内側の柵列が食い違う箇所が中間地点に位置することから、出入り口の可能性がある。この方形区画遺構の内部では建物が見つかっておらず、出土土器に手捏ね土器を含むことからも、祭祀性の高い空間であったと想定される。土器の特徴から、5世紀第2四半期ごろに機能したものと考えられる。

5区11号住居では、高壙・小型壺を中心に多数の土器が出土した。これらの土器とともに、鎌身部が剣身形を呈す短頸鎌、鎌、鑿（たがね）などの鉄製品が出土した。そして特筆すべきものに、紡錘車形石製品があった。側面を階段状に加工し、表面は平滑に仕上げている。福島県内では、会津若松市の会津大塚山古墳北棺から4段の平坦面をもつ紡錘車形石製品が出土している。さらに8区7号住居からも希少遺物が集中して出土した。このように、特定の建物から他の建物では見られない鉄製品・石製品などが出土した。

東北地方に明瞭な形で鍛冶遺構が見られるようになるのは5世紀前半のことと、清水内遺跡では7棟の堅穴建物から鍛冶の痕跡が確認された。その内容は、東北地方の同時期の遺跡と比較しても豊富である。また、5区5号住居からは、断面が算盤玉形の土製の紡錘車が出土した。算盤玉形紡錘車の分布の中心は、大阪府から岡山県にかけての地域と福岡県で、これまで50遺跡ほどで出土している。希少な渡来系遺物として特筆すべきものである。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1996『清水内遺跡－1・2・3区調査報告－』／1997『清水内遺跡－4区調査報告－』／1997『清水内遺跡－5区調査報告－』／1999『清水内遺跡－7区調査報告－』／1999『清水内遺跡－6・8・9区調査報告－』第1冊／1999『清水内遺跡－6・8・9区調査報告－』第2冊、大安場史跡公園 2021『東北地方における古墳時代中期の集落 清水内遺跡』、佐久間正明・渡邊歩 2022「福島県における渡来系遺物の一様相」『福島考古』第64号 89-99頁

■大根畠遺跡 安積町荒井字大根畠

土地区画整備事業に伴い、1987（昭和62）年度から1991（平成3）年度にかけて発掘調査が実施された。4次にわたる調査で、主に後期前半の堅穴建物が確認されている。1989（平成元）年度に行われた第3次調査では、中期の堅穴建物も2棟検出された。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1987『大根畠遺跡－発掘調査報告書－』／1991『大根畠遺跡－第4次発掘調査報告書－』

■柴宮山古墳群 安積町荒井字柴宮山・大槻町室ノ木

発掘調査の詳細な記録は残されていないが、石製模造品が出土したとされる。現在残る唯一の古墳は、その上部に稻荷宮神明宮があり、現況では直径12m前後の円墳と観察される。

■阿弥陀壇古墳群 大槻町字柏山

土地区画整備事業に伴い、1978（昭和 53）年度に発掘調査が行われた。方墳 1 基と円墳 4 基の古墳が調査されている。各古墳の時期は、方墳が中期前半、円墳が後期と考えられる。1号墳は一辺 25m 前後の方墳で、埋葬施設は墳頂中央で検出され木棺直葬と考えられる。3号墳は、直径約 10m の円墳である。6号墳は直径 14m 前後の円墳で、凝灰岩の破片が多数出土したことから横穴式石室と考えられる。4・5号墳はどちらも墳丘が削平され、周溝のみ検出された。直径 18～20m 前後の円墳と推定される。

【参考文献】郡山市教育委員会 1979『阿弥陀壇古墳群発掘調査概報』

3. 後期

■太田遺跡 大槻町字太田北・北地蔵谷地

1960（昭和 35）年頃に遺跡の一部が開田され、その際多量の土器が出土した。県営圃場整備事業に伴い、1973（昭和 48）年に発掘調査が実施された。検出された遺構は竪穴建物 11 棟のみで、後期前半の集落と判明した。

【参考文献】郡山市教育委員会 1974『太田遺跡』

■丸山遺跡 安積町成田字丸山

多目的公園「郡山カルチャーパーク」の建設に伴い、1987（昭和 62）年度に大規模な発掘調査が行われた。後期前半の竪穴建物が 16 棟検出された。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1988『丸山遺跡』郡山カルチャーパーク関連報告第 2 集

■麦塚古墳 大槻町字麦塚

市の重要遺跡の記録保存を目的として、1960（昭和 35）年に発掘調査が実施された。周溝は確認されていないが、出土した埴輪の配列などから全長 26m 前後の前方後円墳と推定される。埋葬施設は、盜掘坑や一字一石経を埋納した経塚により大きく破壊されていたが、わずかに残る石室内から直刀片・耳環などが出土した。墳丘からは円筒埴輪や家形・人物・器財などの形象埴輪が出土している。後期前半の築造と考えられる。

【参考文献】郡山市教育委員会 1962『福島県郡山麦塚古墳』

■大槻古墳群 大槻町字西ノ宮西・新池下・御花畠

すでに消滅した古墳群である。長くその位置や数が不明であったが、1938（昭和 13）年に作成された分布図が公開された。この分布図には、多数の古墳とともに現在も位置を変えずに残っている池や道路も描かれている。これによれば、現在の大槻町字西ノ宮西・新池下・御花畠辺りに 100 基前後の古墳があったとみられる。

【参考文献】垣内和孝 1994「松井綾夫著『安積郡大槻村に於ける遺跡遺物の研究』の紹介と若干の検討—特に「大槻村古墳墳丘分布図」を中心に—」『郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 研究紀要』第 1 号、郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2023『大槻古墳群 遺構確認調査報告書』

■針生古墳 静町

多数の古墳が消滅した大槻地区の中で、破壊を免れた古墳として郡山市の史跡に指定されている。1950（昭和 25）年に発掘調査を行い、横穴式石室から耳環などが出土したため、後期の円墳と考えられる。

■福樂沢遺跡1・2号墳 大槻町字蝦夷坦

1969（昭和44）年に遺跡の内容把握のため実施した試掘調査の際に、2基の古墳が確認された。両古墳ともすでに墳丘は削平されており、1号墳では直径10m前後の周溝と横穴式石室の基底を調査し、2号墳は周溝の一部のみ発掘した。両古墳の時期は、後期後半と考えられる。

【参考文献】郡山市教育委員会 1971『郡山市福樂沢遺跡発掘調査報告書』

（2）阿武隈川東岸（第5図）

1. 前期

■大安場古墳群 田村町大善寺字大安場

1995（平成7）年度の測量調査を受けて、1996（平成8）年度から2004（平成16）年度にかけて保護・保存に向けた発掘調査が実施された。前期後半の大型前方後方墳1基と中期後半の円墳4基が確認され、前方後方墳が国の史跡に指定されたことを契機として復元整備が進められ、現在では史跡公園となっている。前方後方墳である1号墳は、全長約83m、前方部2段、後方部3段の築成で、丘陵の突端を一部整形して構築されている。埋葬施設は、長軸約10m、短軸約2mの長方形墓坑底面に粘土を貼って棺床としており、長さ約9m、幅約1mの木棺が安置されたと推定される。副葬品は、腕輪形石製品・鉄大刀・鉄槍・鉄劍・鉄鎌・鉄斧・剣形鉄製品・刺突具状鉄製品などが出土している。他に墳頂部やくびれ部などから多数の底部穿孔壺が出土しており、これらは墳頂部に立て並べられたと考えられる。

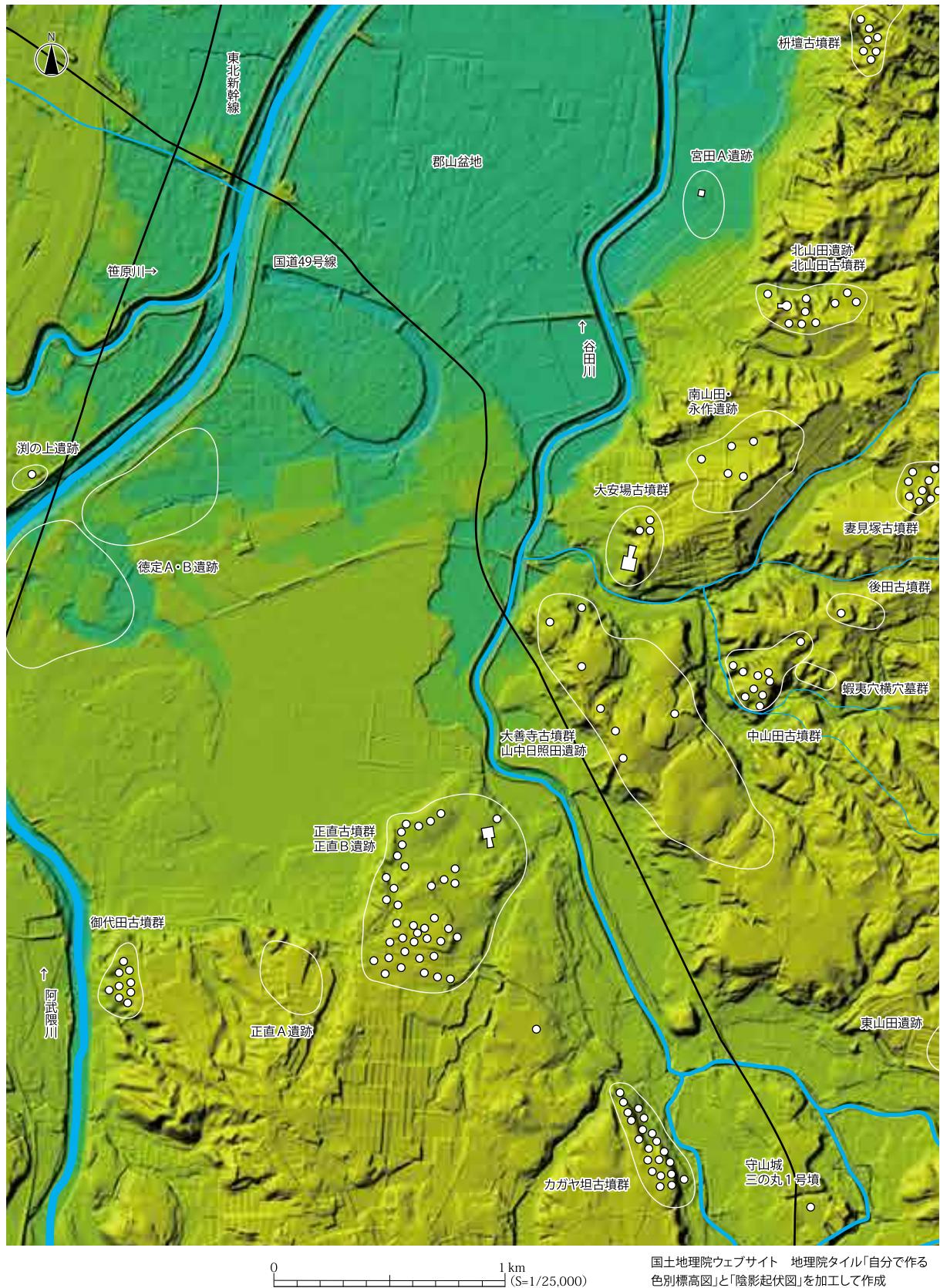
2号墳は直径約15mで、墳頂中央部から箱式石棺が確認されている。5号墳は直径約12mで、埋葬施設は未確認である。3・4号墳は半分以上が開発行為により大きく削平されているが、周溝の形状などから円墳と推定される。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1997『大安場古墳群－第1次発掘調査報告－』／1998『大安場古墳群－第2次発掘調査報告－』／1999『大安場古墳群－第3次発掘調査報告－』／2003『大安場古墳群－第4次発掘調査報告－』／2004『大安場古墳群－第5次発掘調査報告－』／2005『大安場古墳群－第6次発掘調査報告－』、豊島直博 2007「古墳時代前期の刀装具」『考古学研究』第54巻第1号 考古学研究会 68-88頁

■山中日照田遺跡 田村町大善寺字中山田

大善寺古墳群とともに大善寺地区遺跡群を構成する。国営郡山東部地区総合農地開発事業に伴い、1981（昭和56）年度に大規模な発掘調査が行われる。また、1998（平成10）年には、無線基地建設に伴って小規模な発掘調査が実施された。1981（昭和56）年度の調査では、39～44棟前後の前期の竪穴建物の他、中・後期の竪穴建物が多数見つかるとともに、前期の方形周溝墓や円形周溝墓も発見されている。また、1998（平成10）年の調査では、中期後葉の竪穴建物が2棟検出された。山中日照田遺跡は、古墳時代の前・中・後期を通して阿武隈川東岸地域の拠点的な集落の可能性がある。

【参考文献】郡山市教育委員会 1982『郡山東部』II、郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1999『山中日照田遺跡－第2次調査報告－』、柳沼賢治 1988「郡山市大善寺地区出土の古墳時代前期土器－山中日照田A地区の資料－」『福島考古』第29号 31-42頁、黒田篤史 2003「山中日照田遺跡出土土師器の編年的再検討－古墳時代前期を中心として－」『福島考古第』44号 69-90頁



第5図 郡山東部の古墳時代主要遺跡分布図

■大善寺古墳群 田村町大善寺字上野・上石切場

山中日照田遺跡とともに大善寺地区遺跡群を構成する。1945年代の後半頃、数基の古墳が発掘調査され、骨鏃などが検出された。1972（昭和47）年に削平された古墳の発掘調査を行い、箱式石棺の埋葬施設と人骨の一部を検出した。また、山中地区では、耕作中に積土を失った古墳から数振の直刀が掘り出されている。台地の周縁を取り巻くように古墳群が形成されており、中には埴輪を伴う古墳もあったようで、これまでに6か所の地点で中期後半の埴輪が採取されている。

【参考文献】郡山市教育委員会 1982『郡山東部』II、郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2022『大善寺古墳群－第2号墳・8号墳試掘調査報告書－』

■北山田遺跡 田村町上行合字北山田・中山田

北山田古墳群と複合する遺跡である。公立学校敷地拡張工事に伴い、1985（昭和60）年度に発掘調査が行われた。また、1987（昭和62）・1988（昭和63）年度には、国営郡山東部地区総合農地開発事業に伴い、大規模な発掘調査が実施された。1985（昭和60）・1988（昭和63）年度の調査では、古墳時代の遺構は確認されなかったが、1987（昭和62）年度の調査では前期5棟、中期9棟の竪穴建物が検出された。いずれの調査区でも古墳の所在が確認されたことから、1985（昭和60）年度は古墳1基、1987（昭和62）年度は古墳2基、1988（昭和63）年度は古墳3基の調査を併せて行っている。中期の7号竪穴住居から須恵器・二重穂が出土している（第6図）。

■北山田古墳群 田村町上行合字北山田・中山田

北山田遺跡と複合する古墳群で、13基の古墳を確認している。公立学校敷地拡張工事に伴い、1977（昭和52）年度と1985（昭和60）年度に発掘調査を実施した。また、1987（昭和62）・1988（昭和63）年度には、国営郡山東部地区総合農地開発事業に伴い、大規模な発掘調査を行った。方墳1基（1号墳）、帆立貝形前方後円墳1基（2号墳）、円墳5基（3・4・10・12・13号墳）の計7基の古墳を調査している。帆立貝形前方後円墳は全長約24mで、埋葬施設は二棺並列の木棺直葬、時期は中期中葉頃と考えられる。一辺10m前後の方墳は、周溝や埋葬施設は検出されなかった。時期は中期後半以降と推定される。5基の円墳は直径14～21mで、いずれも帆立貝形前方後円墳築造前後の時期が想定される。未調査の古墳6基は、現況で全て円墳と推定される。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1986『北山田遺跡発掘調査概報』／1986『北山田2号墳発掘調査概報』／1988「北山田遺跡・北山田3号墳」『郡山東部』8／1989「北山田遺跡」『郡山東部』9

2. 中期

■宮田A遺跡 田村町上行合字宮田

国営郡山東部地区総合農地開発事業に伴い、1984（昭和59）年度に発掘調査が行われた。前期の方形周溝墓1基と中期中葉の方形周溝墓1基の他、方形周溝墓の可能性のある溝が検出された。

【参考文献】郡山市教育委員会 1985「宮田A遺跡」『郡山東部』V

■徳定A・B遺跡 田村町徳定字塚ノ越・芋干場

東北新幹線敷設工事に伴い、1972（昭和47）・1974（昭和49）・1975（昭和50）年度に発掘調査が行われた。また、2005（平成17）・2008（平成20）～2012（平成24）年度には、土地区画整理事業に伴う

発掘調査が実施された。両調査で検出した遺構の多くは、後期前半と奈良・平安時代の竪穴建物であったが、土地区画整理事業に伴う 2012（平成 24）年度の第 6 次調査では、前期の竪穴建物を 2 棟検出した。なお、2023（令和 5）年度の第 7 次調査では、中期の竪穴建物を調査している。

【参考文献】福島県教育委員会 1981「徳定遺跡」『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告書』Ⅲ、郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2014『徳定 A・B 遺跡—第 1・2 次発掘調査報告—』／2015『徳定 A・B 遺跡—第 3・4 次発掘調査報告—』／2016『徳定 A・B 遺跡—第 5・6 次発掘調査報告—』／2023『徳定 A・B 遺跡—第 7 次発掘調査報告—』

■永作遺跡・南山田遺跡・南山田古墳群 田村町手代木字永作、田村町上行合字南山田

両遺跡は、ともに国営郡山東部地区総合農地開発事業に伴い、大規模な発掘調査が行われた。1986（昭和 61）年度の永作遺跡の調査では、中期後半の竪穴建物が 30 棟検出された。また、1989（平成元）年度の南山田遺跡の調査では、同じく中期後半の竪穴建物が 78 棟発見されている。鉄滓・羽口・炉・鍛造剥片などが見つかった竪穴建物が両遺跡ともに 2 棟ずつあり、これらは鍛冶工房と考えられている（第 6 図）。また、永作遺跡では、石製模造品の製作工房と考えられる竪穴建物が 1 棟確認されている。さらに、両遺跡では、須恵器が比較的多く出土している。同一丘陵上に連続して所在する、同一の集落である。

南山田古墳群は南山田遺跡と複合する古墳群である。中期の円墳 1 基（南山田 1 号墳）と円形周溝 3 基が検出されている。1 号墳は直径 16m 前後で、埋葬施設は木棺直葬と考えられる。小型脚付把手付壺と呼ばれている陶質土器に似た土器、さらに把手付多孔式甌など、渡来系遺物が出土している。現在は、かぶつ壇古墳と呼ばれている古墳 1 基が遺存している。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1987「永作遺跡」『郡山東部』7／1990「南山田遺跡」『郡山東部』10／1991『南山田遺跡 第一冊』、佐久間正明・渡邊歩 2022「福島県における渡来系遺物の一様相」『福島考古』第 64 号 89-99 頁

■正直 A 遺跡 田村町正直字蓮沼

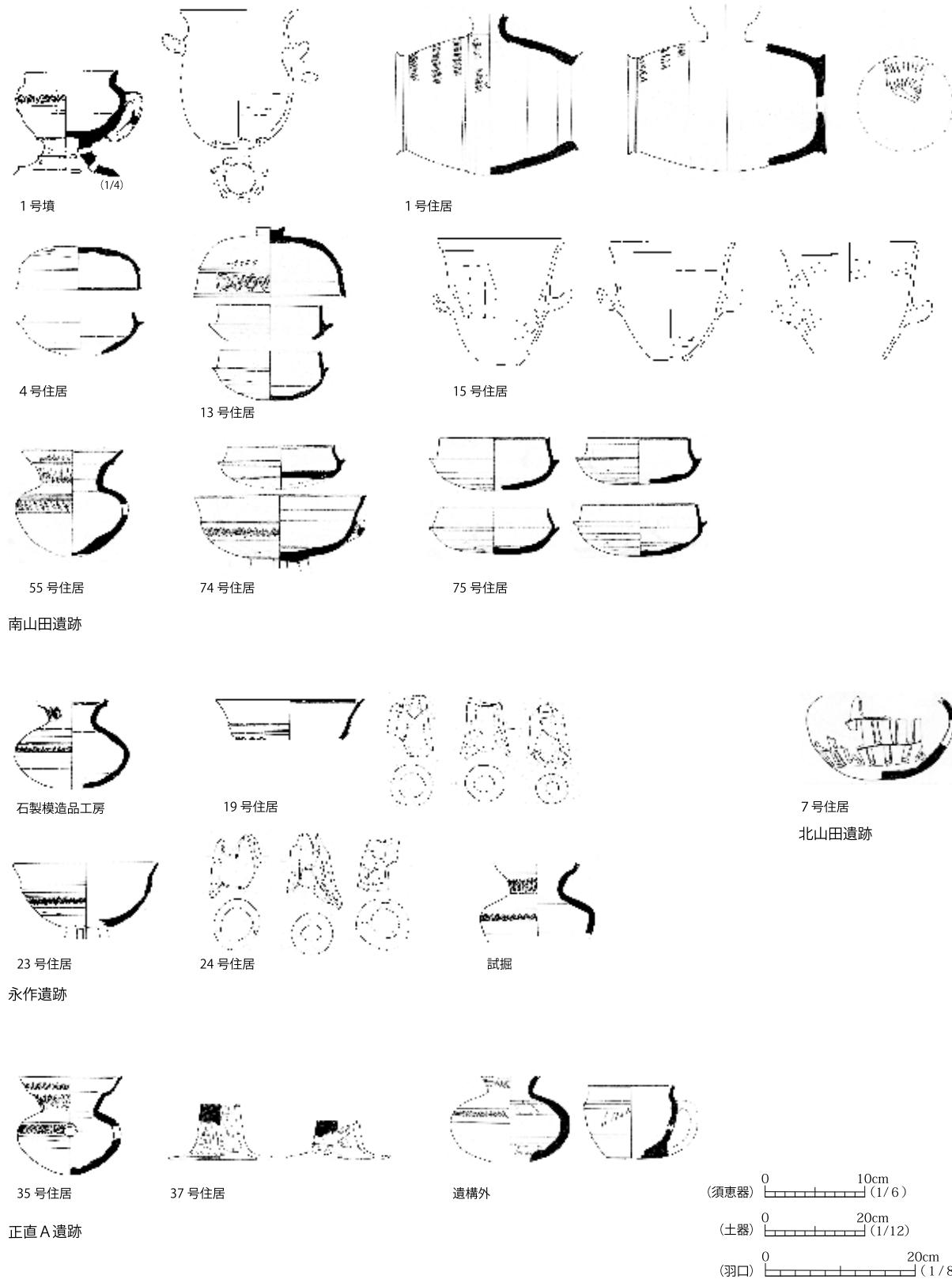
古くから石製模造品が採集され、正直祭祀遺跡として知られた遺跡である。国営総合農地開発事業母畠地区に伴い、1992（平成 4）年度に大規模な発掘調査が行われた。中期後半～後期前半 57 棟、後期後半 2 棟の竪穴建物が検出されている。中期後半の竪穴建物の中には、大量の石製模造品やその未成品・剥片などが出土したものが 1 棟あり、この遺構は石製模造品の工房と考えられる。また、屋外で土器や石製模造品が集中して出土した地点が 3 か所検出され、これらは中期後半の祭祀跡と考えられている。さらに羽口も出土し鍛冶工房の存在も確認され、須恵器も数多く出土している（第 6 図）。正直 A 遺跡は、正直古墳群と同一台地上の南西至近距離にあり、同古墳群の築造に関わる集落のひとつである蓋然性が高い。

【参考文献】福島県教育委員会 1994「正直 A 遺跡」『母畠地区遺跡発掘調査報告』34

3. 後期

■妻見塚古墳群 田村町手代木字妻見塚

妻見塚遺跡と複合する古墳群である。直径 10m 前後の円墳が 10 基程度確認されている。中には、天井石や門柱石が露出しているものがあることから、横穴式石室を伴う後期の古墳群と考えられている。



第6図 郡山南東部遺跡群の渡来系遺物

国営郡山東部地区総合農地開発事業に伴い、1985（昭和 60）年度に妻見塚遺跡として発掘調査が行われた地区で、石室の底石と考えられる石組が 2 か所検出されている。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1986 「妻見塚遺跡」『郡山東部』 6

■中山田古墳群 田村町大善寺字中山田

細い谷を挟んで大善寺古墳群の北東に位置する古墳群である。直径 10~20m 程度の円墳が 11 基確認されているが、発掘調査が行われていないため詳細は不明である。

■柿壇古墳群 田村町下行合字朝日舞

下永田 B 遺跡と複合する古墳群である。直径 10m 前後の円墳が数基確認されている。県道飯豊郡山線建設工事に伴い、1985（昭和 60）年度に下永田 B 遺跡として発掘調査が行われた地区で、天井石と周溝のみが遺存する古墳が 1 基検出され、横穴式石室を伴う後期の古墳群と考えられている。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1986 『下永田 B 遺跡－発掘調査報告書－』

■御代田古墳群 田村町御代田字中林

直径 10m 前後の円墳が数基確認されている。1955（昭和 30）年に、福島考古学会によりすでに露出来ていた横穴式石室の発掘調査が行われ、耳環 1 点と石製模造品が出土している。後期の古墳群と考えられている。

【参考文献】福島県教育委員会 1960 「田村郡御代田古墳調査」『福島県埋蔵文化財調査報告書』

■カガヤ坦古墳群 田村町守山字カガヤ坦

22 基の古墳が確認された。発掘調査が行われておらず詳細は不明だが、方墳と思われる古墳を 1 基含む。

■渕ノ上 1・2 号墳 安積町笹川

阿武隈川上流改修工事に伴い、1971（昭和 46）年度に行われた渕ノ上遺跡の発掘調査の際に 2 基の古墳が検出された。両古墳ともすでに墳丘は失われており、1 号墳では周溝の一部と横穴式石室の基底面が調査され、2 号墳は横穴式石室の基底面のみの発掘となった。玄室の平面形はともに胴張気味で、1 号墳からは頭椎大刀や堅矧板革綴突起付冑とそれに付属する小札などが出土している。時期は、後期後半と考えられている。

【参考文献】郡山市教育委員会 1971 『福島県郡山市渕の上遺跡発掘調査概報－阿武隈川上流改修工事文化財調査－』、内山敏行 1992 「古墳時代後期の朝鮮半島系冑」『研究紀要』第 1 号 栃木県埋蔵文化財センター 143-165 頁、内山敏行 2001 「古墳時代後期の朝鮮半島系冑（2）」『研究紀要』第 9 号 栃木県埋蔵文化財センター 175-186 頁、内山敏行 2006 「古墳時代後期の甲冑」『古代武器研究会』第 7 号 古代武器研究会 19-28 頁、豊島直博 2019 「頭椎大刀の生産と流通」『考古学雑誌』第 102 卷第 1 号 日本考古学会 77-121 頁、横須賀倫達 2009 「渕の上 1・2 号墳出土遺物の調査と研究」『福島県立博物館紀要』第 23 号 59-102 頁、横須賀倫達 2009 「後期型鉄冑の系統と系譜」『考古学ジャーナル』581 ニューサイエンス社 17-21 頁

■守山城跡三の丸 1 号墳 田村町守山字三ノ丸

小学校体育館増・改築工事に伴い、2010（平成 22）年度に行われた守山城跡の第 5 次発掘調査の際に検出された。墳丘はすでに失われており、横穴式石室の基底面と周溝の一部が調査された。石室底面か

ら須恵器高坏・土製丸玉・土製勾玉・耳環・刀子・鉄鍔などが、周溝から円筒埴輪・須恵器甕などが出士している。周溝の半分以上が調査区外となっているため墳形は確定できないが、全長20m以上の前方後円墳の可能性もある。時期は、後期前半と考えられている。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2017『守山城跡 第5・6次調査報告』

■蒲倉古墳群 蒲倉町字力チ内・横川町字大谷地ほか

1973（昭和48）年度に一部の古墳の発掘調査を実施したことを皮切りに、これまでに21基の発掘調査が行われた。これらの調査により、墳丘が遺存していないものも含めて71基の所在が確認され、直径5～10m前後の円墳群であることなどが明らかになった。築造時期は、後期後半と考えられている。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1992『蒲倉古墳群－分布調査・試掘調査報告－』
／1998『蒲倉古墳群－測量調査・補足調査報告－』／1998『蒲倉古墳群－55・56・57号墳調査報告－』
／1999『蒲倉古墳群－第5次調査報告－』／2000『蒲倉古墳群－第6次調査報告－』／2001『蒲倉古墳群－第7次調査報告－』／2009『蒲倉古墳群－第8・9次調査報告－』、草野潤平 2024「郡山市蒲倉古墳群の研究－大型終末期群衆墳における多系統石室の消長－」『福島考古』第66号 1-20頁

■西の内古墳群 蒲倉町字西の内

蒲倉古墳群の北東約500mの丘陵上に位置する。現在、10基の存在が確認されている。墳丘規模や石室の状況が蒲倉古墳群と類似していることから、同古墳群とほぼ同時期の築造と考えられている。

■蝦夷穴横穴墓群 田村町小川字下田

市単独農道改良工事に伴い、2001（平成13）年度に発掘調査が行われた。横穴墓は以前から11基確認されていたが、この調査では、法面工事で新たに発見された2基と墓群前面の農道部分が対象となった。2基の横穴墓はともに盗掘を受けておらず、玄室内から方頭大刀・象嵌大刀・刀子・鉄鎌、ガラス製小玉・鉄鍔などが出土している。農道部分では複数の溝が検出され、これらは墓域を区画する溝や横穴墓に通じる墓道と考えられている。時期は、後期後半と考えられている。

【参考文献】郡山市教育委員会・郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 2002『蝦夷穴横穴墓群－12・13号横穴調査報告－』／2004『蝦夷穴横穴墓群－12・13号横穴出土遺物報告－』、豊島直博 2014「方頭大刀の生産と古代国家」『考古学雑誌』第98巻第3号 日本考古学会 1-29頁、豊島直博 2018「日本における鉄製武器の生産・流通と国家権力の形成」『考古学研究』第65巻第2号 54-69頁

第2章 既往の調査概要

第1節 既往の調査

(1) 正直古墳群調査の概要（第7図、表1・2）

正直古墳群は郡山市田村町正直字除古・竹ノ内他に位置する、正直B遺跡と複合する古墳群である。1964（昭和39）年に刊行された『福島県史』に初めて分布図が示され（福島県1964）、これにより墳丘を失った古墳2基を含めて35基が知られるようになる。その後、1981（昭和56）年度の30号墳発掘調査、1991（平成3）年度の35号墳測量調査、1995（平成7）年度の15号墳発掘調査、そして2023（令和5）年度の27号墳調査の際に、新たに確認された古墳が追加され、現在では47号まで番号が付けられている。

これらは前方後方墳1基と円墳で構成され、築造時期は古墳時代前期から中期とみられている。確認され、発掘調査が行われた古墳の他にも、耕作時に破壊され未調査のまま墳丘を失った古墳があったものと考えられ、往時は50基前後の古墳により形成されていたと思われる。現在、墳丘ないし墳丘状の高まりが観察できるものは26基である。発掘調査が行われた古墳は、11・12・13・15・21・23・26・27・30・35・44・45号墳である。

各古墳の埋葬施設は竪穴系埋葬施設に限られ、尾根上に数基の古墳がグループを形成し、中でも大型の古墳からは鉄製品や石製模造品が多数出土している。そのため、古墳の立地や規模・出土遺物を検討することにより、古墳群の構造を解明できる可能性を含んでいる。

古墳群の中で最初に調査が行われたのは1949（昭和24）年に調査された23号墳で、その後1970（昭和45）年には27号墳が調査された。いずれも古墳群の中では大型の円墳だが、調査は埋葬施設付近に限られている。このうち27号墳の箱式石棺からは刀子形・斧形をはじめとする数多くの石製模造品と鹿角装剣などの豊富な副葬品が出土した。

最も多くの古墳が密集する古墳群の南西部では11・12・13号墳の3基が1976（昭和51）年に、15号墳が1995（平成7）年に調査された。1981（昭和56）年に古墳群の北西にある30号墳が調査された。30号墳は長軸22.5mの古墳で、木棺直葬の埋葬施設が2基検出された。そのうちの第1埋葬施設からは刀子形石製模造品などが出土した。30号墳の墳丘外では、排水施設のある埋葬施設が検出されている。当初、36号墳と番号を付されたが、30号墳の墳丘外埋葬施設と考えるのが妥当である。そのため、36号墳は現在欠番となっている。

1983（昭和58）年には、圃場整備事業に伴う試掘調査がなされた。トレンチ調査ではこれまでに存在が知られていた3・5～7・10号の5基の古墳で周溝が確認され、新たに確認された古墳が42号墳とされた。

2016（平成28）年、21号墳の墳丘の一部が破壊されたのを契機として、2017（平成29）・2018（平成30）年に発掘調査が行われた。その結果、21号墳は直径37mの円墳であることが判明した。

表1 正直古墳群古墳一覧

	字名	支群	調査			現況	墳丘			備考
			年	方法	原因		墳形	規模(m)	高さ(m)	
1号墳	除古	H				消滅	円墳	12		
2号墳	除古	H				消滅	円墳	20		
3号墳	除古	H	1983年	分布調査	圃場整備	消滅	円墳	15		
4号墳	除古	H				消滅	円墳	10		
5号墳	除古	H	1983年	分布調査	圃場整備	墳丘一部現存	円墳	24		
6号墳	除古	H	1983年	分布調査	圃場整備	消滅	円墳	15		
7号墳	除古	H	1983年	分布調査	圃場整備	墳丘一部現存	円墳	15		
8号墳	除古	H				消滅	円墳	15		
9号墳	除古	H				消滅	円墳	20		
10号墳	天井田・ 山中字批杷沢	G	1983年	分布調査	圃場整備	墳丘一部現存	円墳	25	1.0	墳丘は方形墳(15×12m)として遺存
11号墳	南	H	1976年	発掘調査	宅地造成	消滅	円墳	9.5	0.8	箱式石棺2基が並列
12号墳	南	H	1976年	発掘調査	宅地造成	消滅	円墳	9.5	0.5	
13号墳	南	H	1976年	発掘調査	宅地造成	消滅	円墳	20	2.3	木棺直葬1基(緩やかな舟底形)
14号墳	南	H				現存	円墳	22	1.8	
15号墳	南・除古	H	1995年	発掘調査	県道拡幅	消滅	円墳	17	1.9	箱式石棺か?(盗掘により棺材が拡散)
16号墳	南	H				現存	円墳	18		
17号墳	南・竹ノ内	H				消滅	円墳	15		
18号墳	南	H	2025年	確認調査	宅地造成	消滅	円墳	15		封土南端近くから鉄製品(刀・鎌等)
19号墳	南	H				現存	円墳	10		
20号墳	竹ノ内	F				現存	円墳	10		
21号墳	竹ノ内	F	2017・ 2018年	発掘調査	学術保存	現存	円墳	37	2.7	墳丘南東側が削平
22号墳	北	C				現存	円墳	15		
23号墳	北	C	1949年	主体部調査	開墾	現存	円墳	26		木炭桟1基(粘土桟が存在した可能性も)。二段墳丘を思わせる封土
			1985年	測量調査						
24号墳	新館	B				現存	円墳	15		
25号墳	新館	B				現存	円墳	20	2.0	
26号墳	新館	B	2023年	発掘調査	学術保存	消滅	円墳	14		
27号墳	新館	B	1970年	発掘調査	開墾	消滅	円墳	25	2.0	箱式石棺2基
			2023年	発掘調査	学術保存					
28号墳	北	C				現存	円墳	20		
29号墳	北	C				現存	円墳	20		
30号墳	日向畠	D	1981年	発掘調査	宅地造成	消滅	円墳	22.5	1.5	木棺直葬2基。墳丘外埋葬施設は当初36号墳とされた
31号墳	日向畠	D				現存	円墳	20		
32号墳	日向畠	D				現存	円墳	15		
33号墳	篠田	E				現存	円墳	23	2.0	
34号墳	篠田	E				現存	円墳	20	1.5	
35号墳	宮前	A	1991年	測量調査	学術	現存	前方後方	37		
			2019・ 2021・ 2022年	発掘調査	学術保存					
36号墳										欠番。30号墳の墳丘外埋葬施設
37号墳	日向畠	D				現存	円墳	15		
38号墳	篠田	E				現存	円墳	15	1.5	
39号墳	北畠	A	2022年	測量調査	学術保存	現存	円墳	15		
40号墳	除古	H				現存	円墳	15		
41号墳	除古	G				現存	円墳	15		
42号墳	天井田	G	1983年	分布調査	圃場整備	消滅	円墳	15		
43号墳	竹ノ内	F				現存	円墳	15		
44号墳	新館	B	2023年	発掘調査	学術保存	消滅	円墳	12		
45号墳	新館	B	2023年	発掘調査	学術保存	消滅	円墳	11		

表2 正直古墳群出土遺物一覧

	埋葬施設	規模(cm)	埋葬施設出土遺物	埋葬施設以外の出土遺物
1号墳				
2号墳				
3号墳				
4号墳				
5号墳				
6号墳				
7号墳				
8号墳				
9号墳				<墳丘>石製模造品(斧・曲刃鎌)
10号墳				
11号墳	北箱式石棺	復原250×50		<墳丘>土師器(壺・坏) <旧表土>土師器(坏)
	南箱式石棺			
12号墳				<周溝>土師器(高坏・坏・甕)
13号墳	木棺	残55×30	鉄鎌、臼玉	<周溝・旧表土上面>石製模造品(円板)・土師器(高坏・壺・坏・甕)
14号墳				
15号墳				<周溝・旧表土上面>石製模造品(円板)・土師器(高坏・壺・坏・甕)、<1溝>石製模造品(剣)
16号墳				
17号墳				
18号墳				封土の南端近くから鉄刀、鉄鎌等出土
19号墳				
20号墳				
21号墳	第1埋葬施設	730×200		<周溝・墳丘>土師器(壺・器台)
	第2埋葬施設	1000×200		
22号墳				
23号墳	木炭櫛	500×110	堅櫛、石製模造品(刀子)、琥珀玉	封土中に石製刀子1
	粘土櫛?			
24号墳				
25号墳				
26号墳				
27号墳	南箱式石棺	259×49	鉄斧、鉄鎌、石製模造品(刀子・斧・劍・円板)	<周溝>土師器(壺) <墳丘外埋葬施設>土器棺(壺・甕)
	北箱式石棺東側区画	208×45	鉄刀、鉄斧、石製模造品(劍・円板)、臼玉、ガラス玉、人骨1体	
	北箱式石棺西側区画	235×51	直弧文鹿角装劍、刀子、鉄斧、石製模造品(劍・円板)、臼玉、ガラス玉、人骨2体	
28号墳				
29号墳				
30号墳	第1埋葬施設	230×110	石製模造品(刀子・劍・円板・臼玉)、管玉、琥珀玉、土師器(坏)	<周溝>石製模造品(劍・円板)
	第2埋葬施設	320×145	刀子、石製模造品(臼玉)、ガラス玉、管玉、瑪瑙勾玉、土師器(壺)	
	墳丘外埋葬施設	残440×250	石製模造品(劍・円板)	
31号墳				
32号墳				
33号墳				
34号墳				
35号墳				<墳丘・くびれ部>土師器(底部穿孔壺・甕)
36号墳				
37号墳				
38号墳				
39号墳				
40号墳				
41号墳				
42号墳				
43号墳				
44号墳				
45号墳	箱式石棺			

35号墳は古墳群の北東端に位置する古墳で、当初は中期の前方後円墳と考えられてきたが、1991（平成3）年に墳丘の測量調査を行い、全長37mの前方後方墳であると判明した。そして、2019（令和元）・2021（令和3）・2022（令和4）年に発掘調査がなされた。

2023（令和5）年には27号墳の調査が行われた。27号墳は1970（昭和45）年の調査終了とともに墳丘は完全に削平され、現在はその正確な位置も不明となっていた。その正確な位置とともに周溝の把握を目的とする調査で、周溝底面から土器が出土するとともに、墳丘外から土器棺を検出した。

以上、正直古墳群の調査経過を列記したが、その他調査に因らない出土遺物も見られる。9号墳からは石製模造品（斧形・鎌形）が出土したとされ、さらにこの9号墳から南西へ約20m離れた8号墳と思われる古墳の崩れた墳丘の傍に寄棟造りの石棺があったと伝えられている。

（2）「正直古墳群調査保存事業」の経緯（第8図）

前述の通り、正直古墳群の調査は開発と表裏一体の関係にあった。特に近年の開墾及び宅地化などによって古墳の消滅が危惧されていた。2016（平成28）年8月に、民間業者による開発行為によって21号墳の一部が崩されているとの地元住民からの通報が入る。郡山市生涯学習課（当時）は直ちに現地確認のうえ、民間業者に古墳に対する開発行為の停止と古墳の保存について協力依頼を行った。

同年9月28日に文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門の禰宜田佳男主任文化財調査官が現地を訪れ、調査官の指導・助言を得る。そして郡山市の重要遺跡を保護する観点から、古墳の実態把握、保護・保存を目的とした調査計画を策定し、2017（平成29）年度から国庫補助を受けて調査を開始することとなる。調査を進めるにあたっては、正直古墳群の中でも重要な位置にあると考えられる21号墳・35号墳・27号墳とその周辺の古墳を対象とし、順次調査を進めながら古墳群の時期変遷などの実態解明を目的として行われることとなった。

調査保存事業に伴う発掘調査は、破壊状況の確認・保存が急務であった21号墳から開始されることとなる。調査に先立ち、「正直B遺跡（重要遺跡「正直古墳群」）調査保存に係る懇談会」（以下、懇談会）が設けられ、2017（平成29）年7月7日に第1回の懇談会が開催された。発掘調査の方針・内容・方法等について、同懇談会の指導・助言を受けて実際の調査を進めることとなる。委員は菊地芳朗氏（福島大学行政政策学類教授）、藤澤敦氏（東北大学総合学術博物館教授）、柳沼賢治氏（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授）、玉川一郎氏（福島県考古学会会長）の4名で、菊地委員が会長に選出された。

懇談会は、2017（平成29）年7月7日の第1回を皮切りに、年2回から4回のペースで開催される。懇談会事務局は郡山市文化スポーツ部文化振興課におき、オブザーバーとして福島県教育庁文化財課担当職員と佐久間正明（郡山市文化・学び振興公社）が2017（平成29）年度第1回より参加している。なお、新型コロナウィルス感染防止のため、2020（令和2）年度は懇談会が開催されず、発掘調査も実施していない。懇親会は下記の通り開催された。

2017（平成29）年度	第1回懇談会	2017年7月7日	第2回懇談会	2017年10月13日
	第3回懇談会	2017年11月17日	第4回懇談会	2018年2月1日
2018（平成30）年度	第1回懇談会	2018年8月22日	第2回懇談会	2018年11月29日



(1) 正直21号墳・2017年10月13日



(2) 正直21号墳・2017年11月17日



(3) 正直35号墳・2019年8月8日



(4) 正直35号墳・2019年11月22日



(5) 正直35号墳・2022年1月6日



(6) 正直35号墳・2022年1月6日



(7) 正直27号墳・2023年8月14日



(8) 文化庁調査官視察・2024年7月17日

第8図 調査保存懇談会現地指導・文化庁調査官視察風景

2019（令和元）年度	第1回懇談会	2019年8月8日	第2回懇談会	2019年11月22日
2021（令和3）年度	第1回懇談会	2021年11月11日	第2回懇談会	2022年1月6日
2022（令和4）年度	第1回懇談会	2022年8月29日	第2回懇談会	2022年11月24日
2023（令和5）年度	第1回懇談会	2023年8月14日	第2回懇談会	2023年11月22日
2024（令和6）年度	第1回懇談会	2024年8月7日		
	第2回懇談会	2025年2月12日（書面開催）		

2016（平成28）年	9月28日	文化庁文化財部記念物課	禰宜田佳男	主任文化財調査官
2017（平成29）年	11月24日	文化庁文化財部記念物課	川畠純	文部科学技官
2018（平成30）年	8月28日	文化庁文化財部記念物課	森先一貴	文部科学技官
2024（令和6）年	7月17日	文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門	大澤正吾	文化財調査官

本書の刊行にあたり、各方面から様々なご指導をいただいた。その方々のお名前をここに記し、感謝の意を表します（敬称略）。

青山博樹	秋元陽光	荒井啓汰	新井 悟	石橋 宏	稻田健一	内山敏行
大谷 徹	大谷 基	小野本敦	柏木善治	神林幸太朗	賀来孝代	河野一隆
河野正訓	菊地芳朗	小島純一	小森哲也	今平利幸	坂本和俊	
佐々木憲一	笹生 衛	杉山秀宏	鈴木 功	清喜裕二	玉川一郎	鶴見諒平
寺田良喜	中井正幸	西川修一	西島庸介	土生朗治	早野浩二	平澤 慎
深澤太郎	藤澤 敦	古谷 豪	古屋紀之	前原 豊	三浦茂三郎	箕浦 純
村上恭通	柳沼賢治	山田俊輔	若狭 徹	渡邊 歩		

福島県文化財センター白河館

福島県立博物館

第2節 墳形の認識と群の構成

(1) 古墳群の構成 (第9図)

古墳の分布は立地条件との関連が多分に認められ、そうした分布状況からグルーピングを行う。その際、規模・墳形・段築・葺き石・埴輪といった要素も重要となる。しかし、正直古墳群では、これまで葺き石・埴輪は確認されておらず、段築についても23号墳でその可能性があると指摘されたのみで、確実なものは確認されていない。そのため古墳の分布状況・規模が主たる分析項目となる。

第9図は、各古墳を分布状況からグループ分けしたものである。正直古墳群が位置する丘陵は南から北に向かって緩やかに伸び、その北側と東側には阿武隈川と谷田川により形成された肥沃な沖積地が広がっている。丘陵地帯はその沖積地へ向かって樹枝状に伸びる地形を呈し、古墳はこうした尾根上に数基から10数基のまとまりをもって分布している。その小規模な古墳がまとまる1つの単位を「支群」として捉え、グループ分けを行っていく。

古墳群が築造される丘陵の北端近くには35号墳と39号墳が位置し、これを「支群A」とする。39号墳は時期を示す資料は知られていないが、35号墳は前期の前方後方墳で、古墳群の中心からは離れた位置にある。

古墳群のほぼ中央部には、24～27・44・45号墳の古墳6基がまとまり、これを「支群B」とする。最大の27号墳は直径25mを計り、北へ向かって緩やかに伸びる丘陵の突端近くに位置する。

支群Bと谷を隔てた西側には、22・23・28・29号墳という4基の古墳のまとまりがあり、これを「支群C」とする。なお、22・23号墳の南西側では中世の館跡が確認されており、館築造以前にこの位置に古墳があったことも否定できない。

支群Cと谷を隔てた北側の沖積面に接する丘陵先端には、30～32・37号墳の4基が築造され、これを「支群D」とする。

支群Dと谷を挟んだ北東側には、33・34・38号墳の3基が分布しており、このまとまりを「支群E」とする。

支群Bの南側、丘陵が緩やかに東へ伸びるその東端付近に20・21・43号墳があり、これを「支群F」とする。このうち21号墳は直径37mを測る最大の円墳で、丘陵の先端に築造される。

古墳群の南東端に位置する10・41・42号墳は古墳群の中心となる支群Hから明確に分離し得るか検討を要するが、丘陵の先端に直径25mを測る10号墳が築造され、その西側に小規模な円墳2基が続く状況は、北側の支群Fと類似する状況が見られる。そのため、この10・41・42号墳のまとまりを1つのグループとして把握し、「支群G」とする。

正直古墳群の中心部は1～9・11～19・40号墳の19基からなり、このまとまりを「支群H」とする。支群Hは、直径24mを測る5号墳の周囲に直径15m以下の3・4・6・7号墳が位置するというように、さらに支群としてのまとまりを設定でき、最終的には全ての古墳が3～5基の支群に設定できる可能性もある。しかし、現段階のグルーピングは立地条件からのまとまりを基準として進めているため、さらに微細な基準でのグルーピングは客観性を損なうことにもなりかねず、ここでは中心に密集する19



第9図 支群構成図

基の古墳を「支群H」として把握する。

(2) 墳形の認識（第10・11図、表3）

正直古墳群について包括的に整理がなされた最初のものは、1964（昭和39）年に刊行された『福島県史』である（第10図）。その記述によれば、1号墳から34号墳までが円墳で、35号墳が前方後円墳とされている（福島県 1964）。その後、数基の古墳で方墳の可能性が示されている。正直古墳群ではその時々の調査者により墳形の認識に若干の相違が見られることから、墳形の認識について考える（表3）。

1973（昭和48）年の『郡山市史』刊行時、及び1977（昭和52）年の11・12・13号墳の概報刊行段階では、特に墳形の認識に変化はない。1982（昭和57）年の30号墳調査の概報において、23・30～32の4基の古墳が方墳とされた。さらに、支群Dで新たに発見された37号墳も方墳とされている。1984（昭和59）年刊行の『母畠地区遺跡分布調査報告』では、支群Gで新たに古墳が確認された。なお、この新発見の古墳は1996（平成8）年に42号の番号が付された。23号墳は1982（昭和57）年には方墳の可能性が示されたものの、1986（昭和61）年に測量調査が行われ、直径26mの円墳と判明した。1991（平成3）年には35号墳の測量調査が行われ、前方後方墳であることが明らかとなった。その際、30・31号墳は方墳とされ、21号墳についても墳丘が直線的であることから方墳ではないかとされた。

そして、1996（平成8）年刊行の『正直B遺跡』において、支群Eで38号墳が、支群Aで39号墳が、支群Hで40号墳が、支群Gで41・42号墳が、そして支群Fで43号墳という円墳が登録されることとなった。さらに、支群Bの27号墳の確認調査において、その東側で2基の円墳が確認され、44・45号墳とされた。

35号墳は測量及び発掘調査の結果、前方後方墳であることが明らかとなった。ではそれ以外の古墳についてはどうであろうか。21号墳は、1991（平成3）年に墳丘が直線的であることから方墳とされたが、発掘調査の結果、円墳であることが判明した。これは南北の道により墳丘が改変を受けたため、方墳と認識されたためと思われる。これと同様な状況は、支群Dで顕著に見られる。支群Dはいずれかの段階で方墳と認識されているが、その周囲に家屋や小屋が建つ。そのため、建物建築のために直線的に削平を受けているのである。

墳形が円形か方形かという点は重要な要素だが、これまでの発掘調査では、明確なコーナーや直線的に伸びる周溝は確認されておらず、明らかに方墳と認識された事例はない。こうしたことから、35号墳以外の古墳については、『福島県史』刊行時の認識、つまり円墳と考えるのが妥当である。

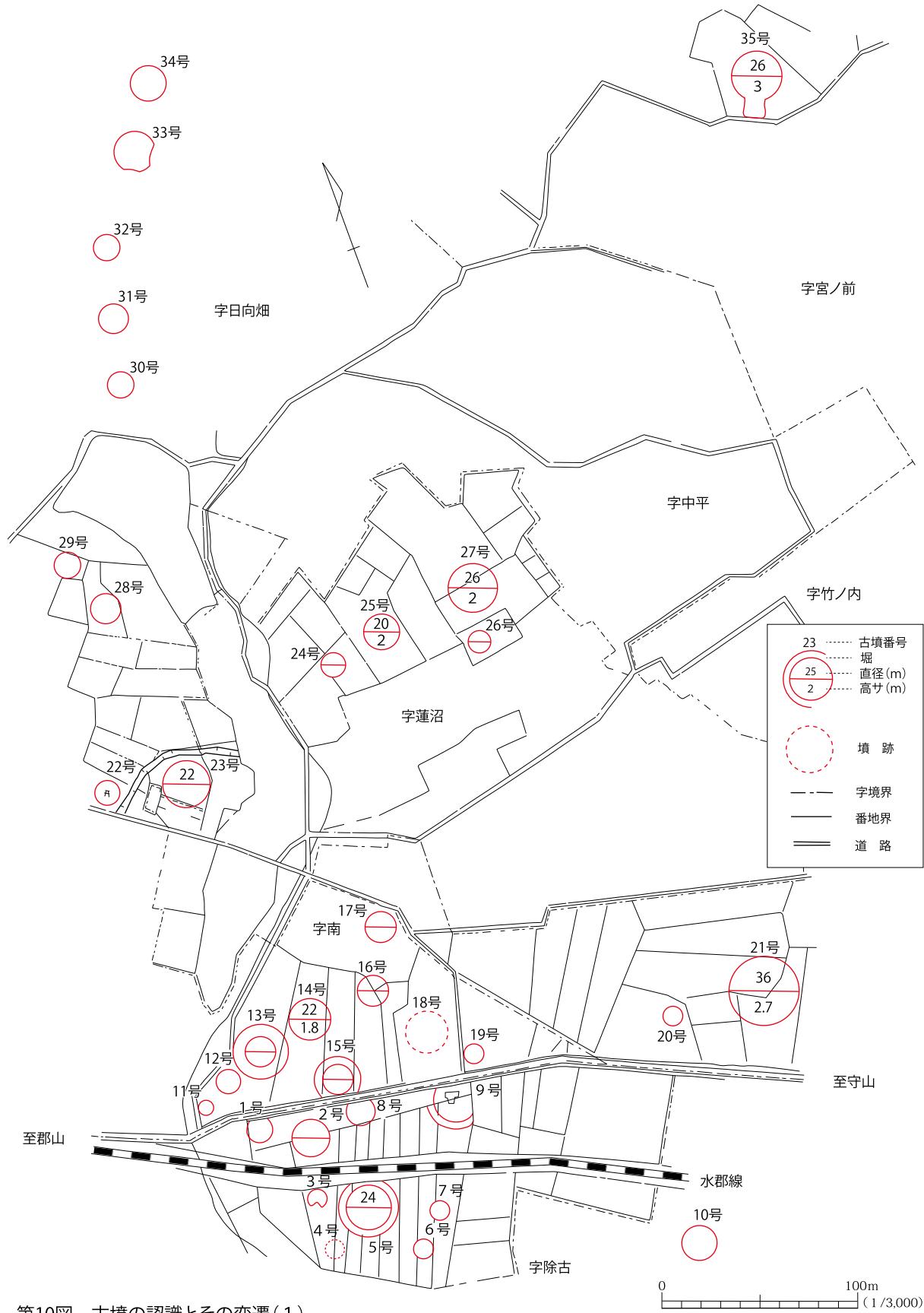
(3) 古墳ごとの概要

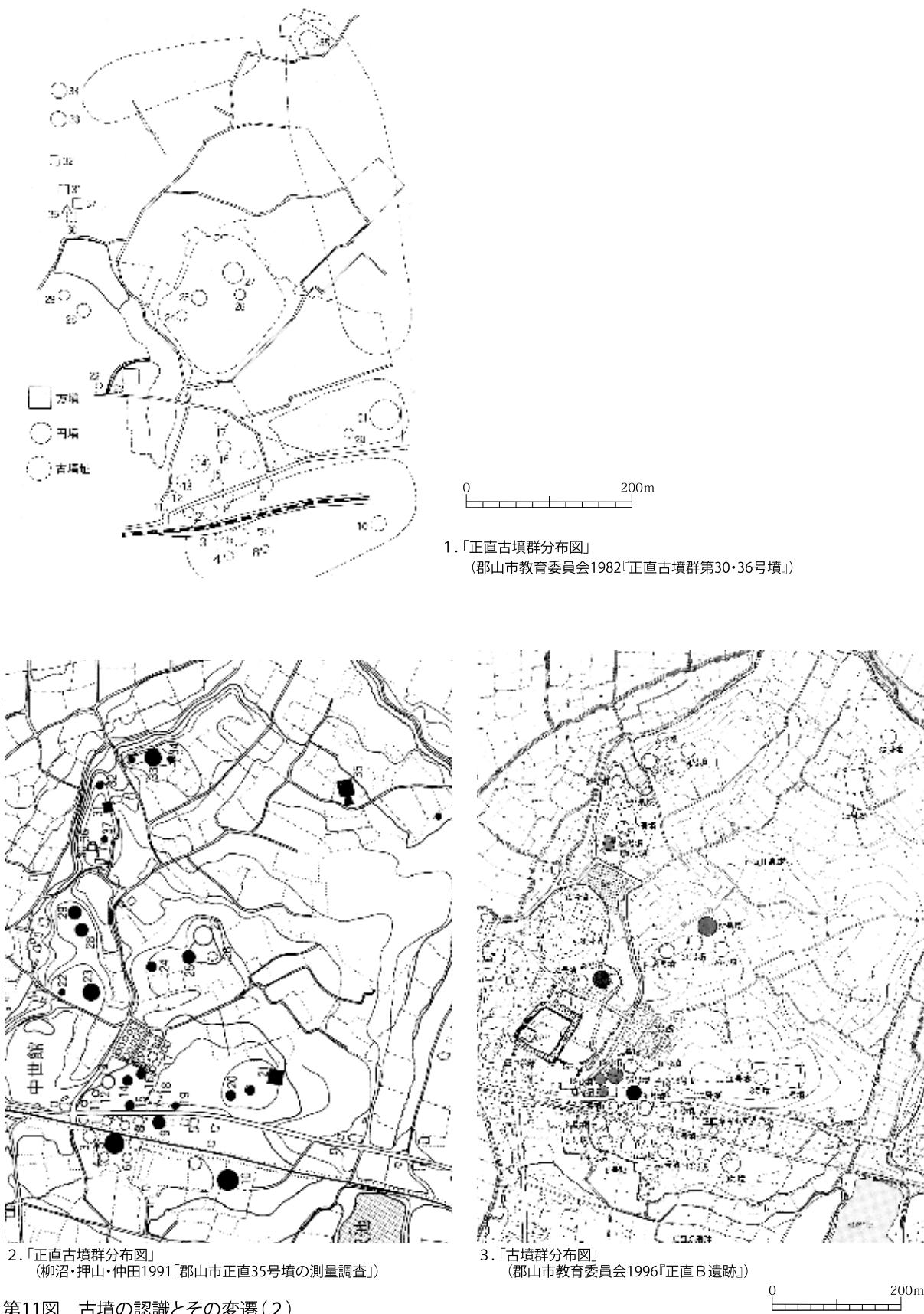
正直古墳群の各古墳は、未調査のまま消滅したもの、記録保存の後に消滅したもの、整備・保存のために調査を受けたものなど様々である。既往調査などを中心に、古墳ごとの調査概要を示す。

■正直1・2・4・8・14・16・17・19号墳（支群H）

【現況】1・2・4・8・17号墳：未調査消滅、14・16・19号墳：現存

【掲載文献】福島県 1964『福島県史』第6巻 資料編1 考古資料





第11図 古墳の認識とその変遷(2)

表3 正直古墳群における墳形認識の変遷

	『福島県史』6		『郡山市史』8	『正直11・12・13号墳』	『30・36号墳』	『母畠分布調査』	『測量調査』	『福島考古』32	『正直B遺跡』
	梅宮		梅宮	郡山市	郡山市	福島県	逸見	柳沼・押山・仲田	郡山市埋文
	1964年		1973年	1977年	1982年	1984年	1986年	1991年	1996年
	墳形	直径	高さ						
1号墳	○	12			○			○	○
2号墳	○	20			○			○	○
3号墳	○	10			○	○		○	○
4号墳	○				○			○	○
5号墳	○	24			○	○		○	○
6号墳	○	10			○	○		○	○
7号墳	○	10			○	○		○	○
8号墳	○	15			○			○	○
9号墳	○	20			○			○	○
10号墳	○	20			○	○		○	○
11号墳	○	9		○9.5	○			○	○
12号墳	○	12		○9.5	○			○	○
13号墳	○	15		○20	○			○	○
14号墳	○	22	1.8		○			○	○
15号墳	○	15			○			○	○
16号墳	○	18			○			○	○
17号墳	○	15			○			○	○
18号墳	○				○			○	○
19号墳	○	10			○			○	○
20号墳	○	10			○			○	○
21号墳	○	36	2.7		○			■	■
22号墳	○	15			○			○	○
23号墳	○	29/22※1		○29	■		○26	○	○
24号墳	○	15			○			○	○
25号墳	○	20			○			○	○
26号墳	○	15			○			○	○
27号墳	○	26	2	○25	○			○	○
28号墳	○	20			○			○	■
29号墳	○	20			○			○	■
30号墳	○	20			■			■	■
31号墳	○	20			■			■	■
32号墳	○	15			■			○	○
33号墳	○	22			○			○	○
34号墳	○	20			○			○	○
35号墳	■	36※2	3		■			■	■
36号墳									
37号墳					■			○	○
38号墳									○
39号墳									○
40号墳									○
41号墳									○
42号墳						○			○
43号墳									○
44号墳									
45号墳									

※1：地図中では22mとされる。

※3：計測値の単位はm

※2：地図では26mとされるが誤植と思われる

※4：『福島県史』の規模は第525図より計測したものと、記載された数値

■正直3・5・6・7号墳（支群H）、10・42号墳（支群G）

【調査期間】1983（昭和58）年～1984（昭和59）年

【調査原因】母畠地区遺跡分布調査（正直B遺跡第1次試掘調査）

【調査主体】福島県教育委員会

【調査担当】財団法人福島県文化センター

【調査概要】古墳の周溝を確認。10号墳は1辺12～15m・高さ1mの方形壇として残り、5・7号墳で地表の膨らみが観察できる。

【現況】消滅、墳丘一部現存

【掲載文献】福島県教育委員会 1984「正直B遺跡（第1次試掘調査）」『母畠地区遺跡分布調査報告』VIII

■正直9号墳（支群H）

【調査概要】『福島県史』では「石室なく内部から石製模造品（斧）を出土し、近くの破壊された小円墳のふた石の断片は寄棟造りのようである」と記載されている。

【現況】消滅

【掲載文献】福島県 1964『福島県史』第6巻 資料編1 考古資料

■正直11～13号墳（支群H）

【調査期間】1976（昭和51）年10月17日～1976（昭和51）年11月25日

【調査原因】個人宅地造成

【調査主体】郡山市教育委員会

【調査概要】11・12・13号墳は古墳群の中でも多数の古墳が密集する支群H西端の開析谷面に位置している。11号墳は、直径約9.5m・高さ0.8mの円墳で、250×50cmの箱式石棺が確認された。墳丘内旧表土より土器が多数出土した。12号墳は、直径9.5m・高さ0.5m程の円墳。13号墳は、直径約20m高さ2.25mの円墳。木棺の痕跡が確認された。墳丘内旧表土より土器が多数出土した。

【現況】調査後消滅

【掲載文献】郡山市教育委員会 1977『正直11・12・13号墳－発掘調査概要－』

■正直15号墳（支群H）

【調査期間】1995（平成7）年8月31日～1995（平成7）年10月23日

【調査原因】県道田村安積線道路拡幅工事

【調査主体】郡山市教育委員会

【調査担当】財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団

【調査概要】直径17m・高さ1.9mの円墳。周溝及び旧表土上面より、土師器・石製模造品が出土し、5世紀後半の築造であることが分かった。また、古墳に隣接して土坑墓が3基見つかった。

【現況】調査後消滅

【掲載文献】郡山市教育委員会 1996『正直B遺跡－発掘調査報告書－』

■正直18号墳（支群H）

【調査期間】2024（令和6）年11月21日・2025（令和7）年1月21日

【調査原因】開拓・個人宅地造成

【調査主体】郡山市教育委員会

【調査担当】公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

【調査概要】『福島県史』によれば「石室なく封土の南端近くから鉄製品（刀・鏃等）が開拓によって発見されている」とあるが、遺物等は不明である。その後、墳丘は消滅している。なお、古墳の東側には一辺 50 cm ほどの板石が積み重ねられている。地権者によると、以前の宅地造成の際に出土したものであるという。そのため、埋葬施設は箱式石棺であった可能性が高い。2024（令和6）・2025（令和7）年、個人宅地造成に伴う試掘調査が実施され、その際に確認された周溝から、直径 15m 前後の円墳と考えられる。

【現況】調査後消滅

【掲載文献】福島県 1964 『福島県史』第6巻 資料編1 考古資料

■正直 20・21・43号墳（支群F）

【調査期間】1次：2017（平成29）年9月1日～2017（平成29）年11月30日

2次：2018（平成30）年5月28日～2018（平成30）年9月28日

【調査原因】正直古墳群調査保存事業

【懇談会】会長 菊地芳朗（福島大学行政政策学類教授）

委員 藤澤 敦（東北大学総合学術博物館館長）

委員 柳沼賢治（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授。2018年特任教授）

委員 玉川一郎（福島県考古学会会長）

【調査主体】郡山市教育委員会

【調査担当】公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

【調査概要】21号墳は墳丘規模直径約37mの円墳であることが分かった。墳頂の削平部から陥没穴らしい落ち込みを確認した埋葬施設は、長大な掘り方が2基見つかり、2棺並列の木棺直葬の可能性が高い。築造時期は、出土した壺から前期末～中期初頭の可能性が高い。なお、『福島県史』によれば「21号墳の南、無番号墳からは土師器とともに石製模造品（綜麻石）と銅製の三葉型の環頭大刀頭が発見された」と記されている。

【現況】現存

【掲載文献】郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2018 『正直古墳群－第1次発掘調査報告－』／2019 『正直古墳群－第2次発掘調査報告－』

■正直 23号墳（支群C）

【調査期間】発掘調査：1949（昭和24）年

測量調査：1985（昭和60）年7月15日～1985（昭和60）年7月20日

【調査原因】発掘調査：開墾

測量調査：学術調査

【調査主体】発掘調査：福島県学生考古学会

測量調査：財団法人広域社会福祉会東洋文化財研究所

【調査概要】『福島県史』によれば「昭和25年いもの貯蔵穴を構築中木炭櫛が発見された。径29m、高さ5m二段墳丘を思わせる封土であるが、頂上は削平され、斜面も後世手がはいっているようである。東西を軸にして長さ5m、最大幅1.1mの木炭櫛で、周辺が厚く底部はうすい。木炭をしきつめた下は粘土層で、上層にも粘土がある。櫛の中央に石製模造品の刀子6個が上からまきちらしたように散在し、頭部（東）のあたりに、櫛・琥珀の玉があった。鉄製品は小さな刀子の如きものが中央部と頭部より出土した。木炭櫛は封土の中心から南によっているので、北部にも、もう一つ櫛が存在しているようであったが層がみだれ、粘土櫛とは断定できない。封土中に石製刀子が一個出土しているので、木炭櫛と平行に何らかの櫛があり、つごう二本の櫛があつたものと見てよかろう」とされる。

埋葬施設のみの調査が行われ、木炭櫛が検出された。木炭櫛から豎櫛・刀子形石製模造品などが出土した。現況の墳丘は、東西26m・南北23mほどで、墳丘上及び墳丘東側を中心にかなり削平されている。

【現況】現存

【掲載文献】福島県教育委員会 1952『福島県発見の埋蔵文化財図録 二十葉』

福島県 1964『福島県史』第6巻 資料編1 考古資料

郡山市 1973『郡山市史8 資料（上）』

逸見克己・橋本守 1986「第1次古墳測量調査について—郡山市正直23号・須賀川市蝦夷穴古墳—」『東洋文化財研究所 小報』創刊号 財団法人広域社会福祉会 東洋文化財研究所

■正直22・28・29号墳（支群C）

【現況】22号墳：一部現存、28・29号墳：現存

■正直26・27・44・45号墳（支群B）

【調査期間】1次：1970（昭和45）年12月16日～1970（昭和45）年12月21日

2次（保存事業6次）：2023（令和5）年9月1日～2023（令和5）年12月1日

【調査原因】1次：開墾

2次：正直古墳群調査保存事業

【懇談会】2次：会長 菊地芳朗（福島大学行政政策学類教授）

委員 藤澤 敦（東北大学教授・東北大学総合学術博物館館長）

委員 玉川一郎（福島県立博物館収集展示委員会委員）

【調査主体】1次：郡山市教育委員会

2次：郡山市教育委員会

【調査担当】1次：郡山市教育委員会

2次：公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

【調査概要】南北に並列する2基の箱式石棺が確認された。南箱式石棺からは刀子形・斧形石製模造品、鉄鎌・鉄斧が出土した。北箱式石棺からは人骨とともに石製模造品、鹿角製刀剣装具が出

土した。2次調査では周溝を確認し、底面から壺が出土するとともに、周溝外縁から土器棺を検出した。

【現況】27号墳：調査後消滅、26・44・45号墳：消滅

【掲載文献】田中正能・梅宮茂 1971「正直26号、27号墳発掘概報」『第13回福島県考古学会大会資料』
福島県考古学会、郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2023『正直古墳群－第6次発掘調査報告－』

■正直24・25号墳（支群B）

【現況】現存

■正直30号墳（支群D）

【調査期間】1981（昭和56）年5月28日～1981（昭和56）年6月20日

【調査原因】個人宅地造成

【調査主体】郡山市教育委員会

【調査概要】南北の長さが22.5m、高さ1.5mの古墳。並列する2基の埋葬施設が確認された。また、墳丘外で排水溝を伴う埋葬施設が確認された。埋葬主体部掘り方に木棺を納め、棺側面を礫で固定する礫槨の構造である。

【現況】調査後消滅

【掲載文献】郡山市教育委員会 1982『正直古墳群30・36号墳－発掘調査概要－』

■正直31・32・37号墳（支群D）

【現況】現存

■正直33・34・38号墳（支群E）

【現況】現存

■正直35・39号墳（支群A）

【調査期間】測量調査：1990（平成2）年9月22日～1990（平成2）年9月24日・10月15日

1次（保存事業3次）：2019（令和元）年9月12日～2019（令和元）年12月16日

2次（保存事業4次）：2021（令和3）年11月15日～2022（令和4）年1月21日

3次（保存事業5次）：2022（令和4）年9月11日～2022（令和4）年12月20日

【調査原因】正直古墳群調査保存事業

【懇談会】会長 菊地芳朗（福島大学行政政策学類教授）

委員 藤澤 敦（東北大学教授・東北大学総合学術博物館館長）

委員 柳沼賢治（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授）1次のみ

委員 玉川一郎（福島県立博物館収集展示委員会委員）

【調査主体】郡山市教育委員会

【調査担当】公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

【調査概要】35号墳は、9か所のトレンチ調査により墳端を確認した。墳丘は旧表土層と地山層削り出し後、盛り土して築造している。周溝と段築は確認できなかった。築造時期を推定できる壺と甕が西側くびれ部から出土した。35号墳は、古墳時代前期に築造された墳長約37mの

前方後方墳であることが確定した。

【現況】現存

【掲載文献】柳沼賢治・押山雄三・仲田茂司 1991 「郡山市正直 35 号墳の測量調査」『福島考古』第 32 号、郡山市教育委員会・郡山市文化学び振興公社 2020 『正直古墳群－第 3 次発掘調査報告－』／2022 『正直古墳群－第 4 次発掘調査報告－』／2023 『正直古墳群－第 5 次発掘調査報告－』

この他、『福島県史』には次の 2 つの古墳に関する記述がある。

■正直 21 号墳南の無番号古墳

【調査概要】土師器・石製模造品、銅製の三葉型の環頭大刀頭が発見されたとされる。

【掲載文献】福島県 1964 『福島県史』第 6 卷 資料編 1 考古資料

■古墳群東端の円墳

【調査概要】『福島県史』では、「金銅製環頭大刀柄頭 長 5.8 cm 古墳群東端の円墳において、竪穴式石室から須恵器・勾玉・紡錘車と共に発見された」とされる

【掲載文献】福島県 1964 『福島県史』第 6 卷 資料編 1 考古資料

(4) 古墳群の現在の状況（第 12～15 図）

1964（昭和 39）年当時の認識では、35 基の古墳が確認されている（第 10 図）。そのうち、支群 H の 18 号墳と 4 号墳の 2 基のみ墳丘が失われた「墳跡」とされている。また、同図によれば 3・9・33 号墳の一部は破壊されているものの、ほとんどの古墳は墳丘を見ることができた。

その後の開発は凄まじい勢いで進み、未調査のまま消滅した古墳も複数存在する。現況で確認可能な古墳をみていく。古墳群北東端の支群 A では、前方後方墳の 35 号墳が見られ、39 号墳は僅かな高まりとして認識される。古墳群中央部付近の支群 B では 24・25 号墳が確認される。支群 C では、22 号墳が神社造営時に破壊され、東端の一部のみ残存する。23 号墳は、墳形は明瞭に残るもの、墳頂には過去の調査時のものと思われる掘り込みが現在も残っている。その北側に 28・29 号の 2 基の円墳が確認される。古墳群北西端の支群 D は宅地造成などが進み、現在 31・32・37 号墳が残るもの、墳丘の東側が改変を受けている。支群 E では 33・34・38 号の 3 基の古墳が確認される。

古墳群の南端は東西に伸びる県道沿いに開発が進み、墳丘の破壊が著しい。支群 F では、古墳群中最大の円墳・21 号墳が残るもの、墳丘の南東側が削られている。最南端にある支群 G では、10 号墳の墳丘が 10×10m の方形の壇として残存する。古墳が密集する支群 H は宅地化が最も進んだ場所であり、現在墳丘が明瞭に確認されるのは、14・16 号墳のみである。

現在、墳丘の一部が残る古墳は 20 基ほどである。しかし、支群 B の調査の際に、円形に廻る周溝により新たに古墳が確認されるなど（44・45 号墳）、開墾などにより古くに墳丘が失われた古墳が存在する可能性は高い。



第12図 正直古墳群三角網画像（1）



第13図 正直古墳群三角網画像（2）



第14図 1948年撮影写真（米軍撮影 USA-R1172-5 19480326 国土地理院ウェブサイト）



第15図 オルソ画像